平成２８年度事業報告書

公益財団法人　北九州活性化協議会

目　次

Ⅰ．　概　況　・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ１

Ⅱ．公益目的事業

公1事業

１．“もったいない”を未来に引き継ぐ事業　（もったいない総研事業）　・・・・・・・・　Ｐ２
　１）　「北九州紙えこっパー」の普及に関する企画・研究の実施
　２）　“もったいない”の概念を踏まえたシビックプライドの醸成事業

２．産業人材を育成する事業　・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ３
　１）　北九州地域産業人材育成フォーラム事業
　　※（別紙１）参照

３．次世代を担う人材を育成する事業　・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ３
　１）　「北九州の企業人による小学校応援団」事業
　　※（別紙２）参照

４．都市格（文化力・教育力）を向上する事業　・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ３
　１）　「１０００人の夢寄金」事業
　　（１）　「１０００人の夢寄金」募金事業
　　（２）　「１０００人の夢寄金」助成事業
　　（３）　広報・プロモーション事業の実施

５．まちづくり推進事業　・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ６
　１）　まちの活性化推進事業
　　（１）　「ＫＰＥＣ事業開発研究会」による新しい活動分野の調査・研究
　　（２）　地域づくりネットワークの構築
　　（３）　まちづくり事業の支援、協働の実施
　２）まちの活性化に関する情報発信事業
　　（１）　情報受発信の強化

公2事業

北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業　・・・・・・・・・・・・・　Ｐ７
　　※（別紙３）参照

Ⅲ. 法人運営事業　・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ８

１．会員募集と会員サービスの向上
　１）会員募集の強化
　２）会員サービスの向上

２. 寄付事業の推進

３. 地域連携促進事業の推進
　１）「スポーツ振興チケット」事業

４. 組織運営体制の強化
　１）事業管理体制の整備
　２）財務体質改善の推進
　３）事務局運営体制の強化

５. 会議等の開催
　１）評議員会の開催
　２）理事会の開催
　３）執行役員会議の開催

Ⅰ．　概　況

平成２８年度の国内経済は、アベノミクス景気がバブル期を超え、戦後３番目の長さとなる中、世界景気の回復を背景に生産や輸出が好調に推移した。国内景気回復とそれに伴う雇用環境が改善し、完全失業率は２．８％であり、22年ぶりの低水準となり、有効求人倍率も１．４８倍となり、実に43年ぶりの高水準となった。しかしながら家計への普及は今一つであり、人手不足が成長の制約要因になる可能性も出てきた。

北九州地域においても、有効求人倍率が１．４１倍(H２９年３月)と高水準となる中で、産学官をステージに地方創生戦略事業が展開され、地元就職率の向上に向けた各種の取り組みが推進されている。
製造業においては、単位労働コスト等の比較優位の回復等の構造的要因の変化もあり、自動車、メカトロ等の分野では生産拠点の形成に向かう動きも活発化してきた。
一方で、昨年の明治日本の産業革命遺産に続いて、戸畑祇園大山笠が無形文化遺産に登録、東田第一高炉が未来技術遺産に認定され、さらにはミクニワールドスタジアム北九州の完成等、新しいにぎわいづくりのためのインフラも整備された。

人口減少を背景とした地方創生戦略の推進は、地域の課題は地域の力で解決していくことが求められており、地方自治体が主導する意識改革と住民が主役のまちづくりが土台になるという認識が欠かせない。
こうした環境を背景にして、産学官民の連携軸としてニューパブリックマネージメントによる地域活性化を進めるKPECの役割も、大変重要になってきている。

平成２８年度のＫＰＥＣ事業は、産学官の連携強化による人材育成で、持続的に地域産業活性化に貢献したことが高く評価され、「北九州地域産業人材育成フォーラム事業」が“第６回地域産業支援プログラム表彰事業（イノベーションネットアワード２０１７）“で優秀賞を受賞した。
北九州市立小学校１００校を対象にして進めた「北九州の企業人による小学校応援団事業」については、参画企業：２６１社、授業数：２０３コマと拡大し、平成29年度の全校化（１３１社）に向けて地域の重要システムとなりつつある。
「1000 人の夢寄金事業」については、寄付金の集金方法の再検討を行い、また、新しいイベント企画を取り入れて寄付金額の拡充を図るとともに、公益財団法人の制度メリットを活かした寄付事業の創設検討を行った。
また、「もったいない\総研事業」については、シビックプライドの醸成を踏まえた新しい KPEC 的街づくり事業の事業化に向けた研究を実施した。
指定管理事業である北九州イノベーションギャラリー（ＫＩＧＳ）については、新館長を迎えて、産業人材育成フォーラムと連携した事業の地域展開の推進や、世界文化遺産関連施策等との連携も図りながら、北九州市の産業・技術継承とものづくり人材の育成という目的の実現に向けた体制づくりを推進した。
また、経営体制及び事務局運営体制については、地域企業の雇用延長制度等を踏まえた人材活用環境の開拓を行うと共に、経営健全化のための財務体質の改善を進めた。

平成２８年度の事業実施状況は以下のとおりである。

Ⅱ　公益目的事業

公１事業

北九州市域の活性化に関する調査・研究を行うとともに、行政及び関係団体と活性化施策の総合的な調整を行うことによって、北九州地域の発展に寄与することを目的とした事業

平成２８年度は、以下の事業を実施した。

１　“もったいない”を未来に引き継ぐ事業　（もったいない総研事業）

ＫＰＥＣの創立１０周年事業として創設した「もったいない総研」の運営理念を踏まえた、新しい事業について、「もったいない総研事業検討会」を編成して方向性を検討し、新規事業の事業化に向けた研究を行った。

１）「北九州紙えこっパー」の普及に関する企画・研究の実施

本年度は、北九州市の環境政策とタイアップしたモニター活動を実施し、「えこっパー」の開発意義の周知を図ると共に、「えこっパー」の更なるブランドアップと普及・拡販を推進した。
また、全国牛乳容器環境協議会や地元製紙メーカーとタイアップし、小学校応援団事業と連携して「えこっパー」を使った環境教育を、北九州市内の小学校で実施した。

２）“もったいない”の概念を踏まえたシビックプライドの醸成事業

地方創生戦略の推進や明治の産業革命遺産の世界文化遺産登録等を契機に、シビックプライドの醸成が地域活性化の大きなテーマとなってきた。
そこで、“もったいない“の概念を踏まえたシビックプライドの醸成をテーマとした新しい「もったいない総研事業」の企画・研究を行った。

（１）「北九州市民財産（仮称）」の発掘・活用事業の企画・研究

事業検討準備委員会を編成し、市民が評価する北九州市の産業、文化、社会、生活等の中にある“価値あるもの“を“もったいない“の概念を踏まえた「北九州市民財産（仮称）」とし、街づくりに活用していく、もったいない総研事業の基礎研究を行った。

（２）工業都市・北九州の製造企業等の社史の集約、活用推進事業

北九州地域の１００年余の産業史を構成する産業と技術が集約された製造企業等の社史の収集と体系的整理を行い、研究、教育、テクニカルビジット等に資する地域資源として活用する環境づくりを行った。
本事業は、北九州イノベーションギャラリーの調査・研究事業と連動して実施し、収集された資料は、市民の活用に応えるために、HP に開示すると共に、ＫＩＧＳのライブラリーへの収録を行った。

２　産業人材を育成する事業

１）　北九州地域産業人材育成フォーラム事業

「産業人材育成支援委員会」を編成し、「高度人材育成プログラム事業」「社会人育成プログラム事業」「青少年育成プログラム事業」及び「産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備事業」を実施し、産学連携による産業人材育成システムの構築に向けた企画開発と事業実施を行った。

事業報告の具体的な内容は、「平成 ２８年度北九州地域産業人材育成フォーラム事業報告書」（別紙１）の通り

３　次世代を担う人材を育成する事業

１）　「北九州の企業人による小学校応援団」事業

義務教育支援委員会を編成し、北九州市内小学校１００社を対象に、出前授業、教員研修及びＰＴＡ活動促進支援事業を実施した。
また、北九州市立小学校の教育支援に関する協定書（平成２５年４月１日締結）に基づき、北九州市教育委員会及び（公財）北九州活性化協議会との三者調整会議を開催した。

事業報告の具体的内容は、「平成 ２８年度北九州の企業人による小学校応援団事業報告書」（別紙２）の通り

４．　都市格（文化力・教育力）を向上する事業

１）　「１０００人の夢寄金」事業

都市格（文化力・教育力）の向上を図ることを目的として、教育および文化分野における市民活動へ助成する「１０００人の夢寄金」事業を実施し、第５回助成事業を行った。

（1）　「１０００人の夢寄金」募金事業

①　寄付金募金事業の見直し

既存の１０００人委員会を見直し、「募金事業委員会」を新設し、一口３０００円を基本とした基本寄付を地道に集めていく「一般募金部会」と具体的な目標を持ったグループを作り活動する中でメンバーを広げていく「プロジェクト募金部会」の２部会を設定した。

②　寄付金募集

「１０００人の夢寄金」第５期（平成２８年４月から平成２９年３月まで）の寄付金募集を実施した。寄付者数、寄付金額ともに過去最高。

- 寄付者数　：　２４４名（累計：延べ949名）
- 寄付金額　：　総額2,１１０,７１０円（累計8,４５７,７６３円）

③　寄付金受け入れ体制の運営

ｉ）寄付金優遇税制を活用できる体制の構築

公益財団法人の特例要件を生かし福岡県より税額控除に係る証明を取得し、寄付金控除に対応できる体制を整えた。

ⅱ）寄付金受け入れ体制の維持

個人からの寄付に対して、郵便専用口座開設とあわせて銀行専用振込用紙を制作し対応した。

ⅲ）寄付金預金口座引落し新規取扱い開始

預金口座引落しによる寄付金の定期的な受入れを開始した。

ⅳ）寄付金の毎年徴収の推進

既存寄付先に対し年度分基本寄付の督促を行い、徴収率の向上を図った。

ⅴ）大口寄付金受入れ体制の構築

通常の基本的な寄付以外に香典返し、バザー売上、その他大口寄付金の受入れ体制を構築した。

④　寄付金受入れ方法の多様化推進

ｉ）預金口座引落しによる寄付金募集開始

・第１回引落日　平成２８年１０月２０日（木）
・合計件数２０件　合計金額１４８,０００円

寄付金の新たな受入れ方法として地元金融機関４行に取引のある寄付者の預金口座引落しによる寄付金の募集を開始した。今後も口座振替による募集を推進していく。

ⅱ）　第3回１０００人の夢寄金　チャリティーゴルフコンペ開催

・日　時：平成２８年6月7日（火）
・場　所：九州ゴルフ倶楽部八幡コース
・参加人数：当日９９名参加（3名欠席）
・チャリティー寄付金額：３０６，０００円

ⅲ）　第１回１０００人の夢寄金　チャリティーバザー　クラフト・チクチク開催

・日　時：平成２８年１０月１４日（金）、１５日（土）
・場　所：西部ガス展示スペース　ヒナタ
・来場者数：２日間延べ２００人超
・チャリティー寄付金額：２１８，７１０円

（2）　「１０００人の夢寄金」助成事業

①　１０００人の夢寄金　助成事業審査委員会の継続運営

１０００人の夢寄金の趣旨に沿って公正性を持った審査を行うため、７名の審査員で構成する助成事業審査委員会を運営するとともに、審査委員会運営規定に規定する審査方法および審査基準に則り、厳正な審査体制を維持した。

②　助成先団体の募集と選定

平成２８年１０月から平成２９年９月までの事業実施を対象として、平成２８年7月1日より7月３１日の間、第5回助成先の募集を行った。１６事業の応募に対して審査委員会の審査を経て下記９事業を採択し、総額1,５００,０００円を助成金に充当した。

【第５回助成先　９事業】

団　体　名	事　　業　　名	事　業　概　要
西南女学院大学ＷＩＬＬ	マンガで学ぶ日本の産業発展物語事業（炭鉱編）	北九州の産業発展（炭鉱）に焦点を当て所縁のある地域を見学する産業観光ツアーを企画・実施する。資料としてのマンガ作成とツアー実行の２本立て。昨年は八幡製鉄所設立編の実績あり<第2弾>。
日本イザイ協会	ウジェーヌ・イザイヴァイオリンコンサート開催	日本ベルギー友好１５０周年事業。北九州出身者を含む実力派若手ヴァイオリニストたちによるイザイ作品の演奏会。北九州市民が鑑賞し、音楽的な教養を高める。
子ども食堂ハっちゃん家	子ども食堂事業　ハっちゃん家（食育関連）	食育関連事業。「孤食」「ネグレクト」や「子どもの貧困」など現代の子どもたちが抱える問題に対し、地域が一体となり子どもたちを食でサポートする活動。
ＮＰＯ法人　かんかんむら	かんかんむら幼児園　創立10周年記念事業 ロバの音楽座公演実施	良質な音楽に親しむことによる子どもたちの発育を支援する。当幼児園は１９９６年自主保育の形で事業開始し２０年近く幼児教育に携わる。通常の音楽会は毎年開催中。
GALLARY　SOAP	GALLERY SOAP 20周年記念イベント	設立２０周年記念イベント開催。展覧会、シンポジウム、音楽イベント等を開催予定。期間２０１７年4月1日～8月２７日。２０周年記念企画によりGALLERY SOAPの活動や北九州市を広く国内外にアピールする。
北九州ディスカバリーの会	句画集「杉田久女１０１句」の発刊	今回の企画は杉田久女に焦点を当て、句画集「杉田久女１０１句」の発刊、パネル展開催、久女の生き様について講演会を開催するもの。
ＮＰＯ法人　学研都市留学生支援ネットワーク	外国人留学生による男茶会【チーム茶道2016～日々新たにして、又日に新たなり～】実施	日本の伝統文化である「茶道」を通して、北九州市民と留学生たちが相互理解を含め、多文化共生への未来を拓く国際交流事業とする。今年で１０年目となる事業。
荻野　衣美子	平松町アーカイブ	映像を使った小倉平松地区の埋もれつつある歴史・文化の掘り起しとアーカイブによる保存・継承を実践していく活動。
リバーリンクプロジェクト実行委員会	日韓文化交流事業	日韓アーティストによるコラボレーションとシンポジウムの実施。平成２８年１０月韓国・公報文化院にて開催予定。

（3）　広報・プロモーション事業の実施

①　広報ツールの作成及び広報の実施

ⅰ）「１０００人の夢寄金」ホームページ及び facebook の活用

専用ホームページおよび facebook による広報を行うと共に、助成先各事業のトピックスをタイムリーに掲載・発信した。

ⅱ）メーリングリストの活用

メーリングリストの登録を進め、１０００人の夢寄金メルマガ配信先の増加に努めた。

②　Web 投票の試行

申請のあった助成先を対象として一般から広く助成事業に対する意見を求める Web 投票を新規に試行した。次年度も継続実施の予定。

５　まちづくり推進事業

１）　まちの活性化推進事業

（1）　「ＫＰＥＣ事業開発研究会」による新しい活動分野の調査・研究

Ｈ２７年度にＫＰＥＣ事業開発研究会で方向性を検討した、もったいない総研の新規事業として想定する「北九州市民財産発掘・活用事業」について、専門委員会を編成し、北九州市の「まち・ひと・しごと創生」の中心的テーマであるシビックプライドの醸成に係る地域活性化事業としての方向性とフィジビリティーを確認する調査・研究等を行った。

（2）　地域づくりネットワークの構築

①　北九州地域経済団体連携フォーラム事業の運営

北九州市内の経済団体による「北九州地域経済団体連携フォーラム(事務局：KPEC)」を編成し、各種の情報の共有と事業運営における連携、協働の環境づくりを実施した。

当協議会からは、各団体参加の企業へ『小学校応援団事業』への参画を要請した。

共催事業「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」については、各団体の予算措置が難航し、Ｈ２９年度へ順延した。

③　地域づくりネットワークへの参画

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」の北九州ブロック代表幹事として、同協議会主催の研修会・交流会等に参画し、北九州市域の地域づくり団体との橋渡し役を果した。

(3)　まちづくり事業の支援、協働の実施

①　北九州ミュージックプロムナードの支援

平成８年にＫＰＥＣの提唱で企画、開催され、北九州市民参加交流型の音楽フェスティバルとして定着している「北九州ミュージックプロムナード実行委員会」に参画し、運営を支援した。

②　スポーツを通じて推進する地域活性化事業の企画、運営

官民協働で協議する「スポーツ振興による青少年健全育成実行委員会」に参画し、スポーツを活用した青少年育成のための事業企画及び運営を行った。

平成 28 年度は、北九州市民球場での福岡ソフトバンクホークスの親子観戦事業、バレーボールの堺ブレイザーズの親子観戦事業を支援した。

③　北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

ビジターズ・インダストリーを民間主導で推進する「北九州市にぎわいづくり懇話会」（平成１９年に設置）において、企画調整委員会（委員長；小嶋理事長）へ参画し、にぎわいづくり認定事業において、『北九州グレートサンタラン』をはじめ、２５事業を認定し支援を行った。

２）　まちの活性化に関する情報発信事業

（１）　情報受発信の強化

ＫＰＥＣの運営趣旨と活動及び地域活性化に関する各種情報を地域に伝えることを目的に機関紙の発行及びホームページの運用を行った。

①　ＫＰＥＣニュースの発行

ＫＰＥＣの運営及び事業を、ＫＰＥＣ会員及び関連団体に広く広報するために、ＫＰＥＣニュースを発行した。

（　Vol.61　８月発行　　発行部数：１０００部　）

②　ホームページの運営

専用ホームページの充実を図りＫＰＥＣ事業活動情報をタイムリーに発信した。

③　メール送信システムの整備

会員企業及び事業関連組織等のメーリングリストの整備を行い、セミナー等事業の円滑な運営に資すると共に、ＫＰＥＣの地域ネットワークの構築を行った。

公２事業

北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業

北九州イノベーションギャラリー（ＫＩＧＳ）は、北九州地域の「人材」「技術」「産業遺産」の３つの資産を活用し、新たなイノベーションへとつながる（１）人材活用・育成、（２）産業技術の保存継承(技術の知と心の継承)、（３）技術革新(イノベーション)の機会の創出を行い、人・知を結集し、北九州の発展に必要な新産業を生み出すとともに、博物館を媒体とした技術教育を通し、世界に貢献できる人材の育成を行うことが目的である。

平成２８年度は、第三期指定管理期間（Ｈ２７年～Ｈ３２年）の２年目に当たり、Ｈ２７年度の明治の産業革命遺産の世界文化遺産登録等の、事業環境が変化する中で、計画設定した事業を着実に実施すると共に、「北九州地域産業人材育成フォーラム事業」等との連携を図りながら、新たにものづくり教育・技能教育分野の拡充等の環境づくりを進め、北九州市及びＫＰＥＣをはじめとした地域関連機関との産学官連携による事業推進を図った。

事業報告の具体的な内容は、「平成２８年度北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業報告書」（別紙３）の通り。

Ⅲ. 法人運営事業

１　会員募集と会員サービスの向上

１）会員募集の強化

会員情報の整理を行い、『ＫＰＥＣパンフレット』を活用して、新規会員募集および賛助会費未納の会員に対し、賛助会費の請求を２回実施した。
平成 28 年度賛助会費額：２，２９５千円（会員数 100 名　対前年：▲６５千円減額）

２）会員サービスの向上

賛助会員に対して、ＫＰＥＣが実施する各種地域活性化事業への案内、行政や他団体からの講演会開催等の情報提供を行い、会員との協働による地域活性化に務めた。

２　寄付事業の推進

「公益財団法人」としての税法上優遇措置の強みを活かし、平成 29 年度より本格的寄付事業を推進するために、『KPEC　寄付のお願い』パンフレットを作成した。

３　地域連携促進事業の推進

１）「スポーツ振興チケット」事業

「ＫＰＥＣスポーツ振興チケット」を運用し、「ギラヴァンツ北九州」の応援を通じてまちづくりの心を醸成する「青少年の健全育成事業」を実施した。
平成 22 年度から７年間続いた当事業は、今年度で予定枚数の配布を完了した。
ＫＰＥＣスポーツ振興チケット」については、次年度以降も引き続き、青少年の健全育成事業としての運用を継続する。

（1）　パンフレット配布枚数

・１２．８万部

（2）　事業の成果

・チケットを使用した入場者数　当初からの累計　：　６６，３３０人

項　　目	累　　計	１試合平均	構成比
全体入場者数 （前年比）	６７，６９８人 （９２%）	３，２２４人 （９２%）	１００%
チケットを使用した入場者数 （前年比）	１１，４６４人 （１００%）	５４６人 （１００%）	１７% （１ポイント増）

４　組織運営体制の強化

１）事業管理体制の整備

主要事業運営の外部化等の運営体制の改善、強化を図ると共に、各事業のステークホルダーとの分掌体制の整備促進を図った。

２）財務体質改善の推進

昨年に引き続き、財務体質改善計画に基づいた、一連の業務改革を実行し、KIGS 事業の管理体制の見直し、資金運用効率の向上等を実行し、収支の改善を行い、３期連続の黒字化を実現した。

３）事務局運営体制の強化

有期契約職員の５年ルールの適用については、KIGS の指定管理受諾期間とリンクした雇用契約の締結により、円滑な対応を行った。

また、当協議会の新規採用案件については、関係企業の雇用延長制度等を踏まえた人材活用環境の開拓を行い、ＫＰＥＣの組織環境を活かした運営体制の検討を行った。

５　会議等の開催

定款等に基づき、所定の会議を開催した。

１）　評議員会の開催

- 定時：平成２８年6月１６日
- 第１回臨時：平成２８年8月1日
- 第2回臨時：平成２９年3月１０日

２）　理事会の開催

- 第１回定時：平成２８年5月２７日
- 第2回定時：平成２９年2月２１日
- 第１回臨時：平成２８年7月１５日
- 第2回臨時：平成２８年１１月３０日

３）　執行役員会議の開催　(月１回)

- 第　1回：平成２８年　4月２７日
- 第　2回：平成２８年　5月２３日
- 第　3回：平成２８年　6月　9日
- 第　4回：平成２８年　7月２０日
- 第　5回：平成２８年　8月２６日
- 第　6回：平成２８年　9月３０日
- 第　7回：平成２８年１０月２５日
- 第　8回：平成２８年１１月３０日
- 第　9回：平成２８年１２月１９日
- 第１０回：平成２９年　1月２０日
- 第１１回：平成２９年　2月１０日
- 第１２回：平成２９年　3月１７日

別紙１

北九州地域産業人材育成フォーラム

平成２８年度事業報告書

Ⅰ　概　況

平成 28 年度の国内経済は、アベノミクス景気がバブル期を超え、戦後 3 番目の長さとなる中、世界景気の回復を背景に生産や輸出が好調に推移した。国内景気回復とそれに伴う雇用環境が改善し、完全失業率は 3.0%を維持し、有効求人倍率も 1.40 倍の高水準となった。しかしながら家計への普及は今一つ。人手不足が成長の制約要因になる可能性も出てきた。

北九州地域においても、国家戦略特区の指定を受け、他地域の特区指定項目まで含めた新成長戦略の展開や、国の地方創生戦略関連事業が、産学官をステージに多数展開されているが、中長期的な視点での政策性と実効性には課題を残した感がある。

また、経済環境の改善を背景に、生産現場が輝きを取りもどしつつあるが、サービス産業分野の人手不足が反映して、有効求人倍率も 1.4 倍(H28.11.)と改善してきた。しかしながら、地元中小企業等の採用環境は逆に厳しさが増している状況も現出している。

こうした経済・社会環境の中で、創設 6 年目を経過する「北九州地域産業人材育成フォーラム」は、産学官の連携強化による人材育成で、持続的に地域産業活性化に貢献したことが高く評価され“第６回地域産業支援プログラム表彰事業（イノベーションネットアワード２０１７）“で優秀賞を受賞するなど、人材育成戦略として全国的な評価を得る等、その推進が地域内外から期待されるようになっている。

「高度人材育成プログラム」に関しては、インターンシップに対する対応について、産学官で統一的な整理ができない中、採用環境の好転や大企業の波状的な雇用目的のインターンシップが増加する等の環境変化の影響を受け、「地方」「中小企業」を対象にする地域連携型インターンシップの参加率低下傾向が現出した。

しかしながら、産学協働による実践型教育システムとして定義した「地域連携型インターンシップ」の事業効果は高く、連携大学における制度的対応の具体化、事業を通じての地元企業の認知・理解の促進による地元就職率の向上効果も生まれており、事業の運営環境の拡充・整備は確実に進んでいる。

また、研修型（短期）に加えて、実践能力の育成を目的とする実践型(長期)インターンシップについては、北九州市の「地方創生インターンシップモデル事業」による助成を受け、「実践型(長期)インターンシップ事業モデル」の策定を行うと共に、H29 年度実施に向けて、連携企業による実施計画の編成を行った。

また、地域の中堅・中小企業の技術人材のリカレント・スキルアップ教育の実践的プログラムである「社会人育成プログラム」については、「テクニカルカレッジ」事業の本格的な実施に向けて、懸案の大学における制度創設が実現し、九州工業大学での実証事業を踏まえて、本格的な事業化の基盤整備ができた。また、MBA 活用プログラムについては、「工業系人材のための経営講座-MBA 白熱教室」のカリキュラムの編成を行い、連携校の運用に向けた環境づくりを行った。

「青少年育成プログラム」については、北九州イノベーションギャラリーとの連携による早期工学教育企画の先行実施を行うと共に、求められる中長期的な視点を持った「ものづくり教育」の在り方の検討のための研究プロジェクトの再編を行った。

「地域クラスター形成プロジェクト」については、各事業の地域システム化に伴った、ステークホルダーの組織化等を進めると共に、研究プロジェクトの再編に向けた検討を行った。

また、進捗を見ていない企業会員の募集と組織化については、事業の周知不足や運営体制の未整備等もあり懸案を解決するに至らなかった。

H28 年度において、各事業プロジェクトの概ねの方向付けと内容が確立した。今後は、事業プロジェクトごとに、自律的、持続的発展の仕組みを持ったフォーラムの運営が求められている。

H28 年度の産業人材育成フォーラム事業は、以下の通り概ね事業計画を達成した。

Ⅱ．事業計画の内容

１．高度人材育成プログラムの企画、運営

インターンシップの政策的強化、拡充が全国的に展開される中で、５ 年間の事業実施を踏まえて、「地域連携型インターンシップ」の再定義を行い、産学双方の今日的ニーズを確認しながら、地域システムとしての事業運営体制の整備を行った。

１） 地域連携型インターンシップ事業の拡充、実施

（１） 研修型(短期)インターンシップ事業の拡充、実施

就職内定率の向上による学生のインターンシップ参加率の低下傾向と、一方でインターンシップを活用した実践力の強化及び進路の確定を目指す学生のインターンシップ重視指向の増加の二極化の現出。

◇ 研修型(短期)インターンシップ実施状況

- 対象企業数 ： 200 社 ／ 実施企業数 ： 152 社 ／ 実施率 ： 76%
- 年度別企業、学生参加状況

	H28 年度		H27 年度		H26 年度		H25 年度		H24 年度	
	参加	登録	参加	登録	参加	登録	参加	登録	参加	登録
参加校	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4
参加企業	53	88	67	95	82	92	73	80	57	63
参加学生	91	116	118	146	137	187	122	164	121	159

（２） 実践型インターンシップ事業の実施環境の開発・研究の実施 (新)

①　実践型(長期)インターンシップの試行実施

H26、H27 年度に継続して、実践型(長期)インターンシップ事業の試行を行い、事業の本格的実施に向けた課題の抽出及び実施ノウハウの検討を行った。

◇ 実践型(長期)インターンシップ試行状況

形　態	テーマ	内　容	期　間	大　学	受入企業	給与
業務体験型 (教員がﾒﾝﾀｰとして参加)	企業への短期就職による就業体験通じて社会人体験をする実践型プロジェクト	(業務体験を通じて) ･ﾋﾞｼﾞﾈｽﾊﾟｰｿﾝとしての基本認識を醸成 ･ﾋﾞｼﾞﾈｽの原点の理解 ･最上位ﾚﾍﾞﾙの仕事の経験	1 年間 (有期就職)	九工大 工学部 3 年生/2 名 北九大 経済学部 3 年生/1 名	0 社 (製造業)	有
課題解決型 (教員がﾒﾝﾀｰとして参加)	企業が提示する課題解決を社員と協働で取り組む実践型プロジェクト	(課題) 生産改善ｸﾞﾙｰﾌﾟに所属し、製造現場の生産性向上を目的とした改善	5 ヶ月 (1 ヶ月:研習、4 ヶ月:配属)	九工大 工学部 3 年生/1 名	T社 (製造業)	有

②　実践型(長期)インターンシップモデル策定事業の実施

北九州市の「地方創生インターンシップモデル事業」の助成を受け、実践型（長期）インターンシップの実施ガイド・マニュアルの作成(別紙１)と、企業の意向調査を実施すると共に、H29 年度に向けた実施計画の募集を 61 社を選定し、16 社の提案を受けた。

◇　実践型(長期)インターンシップ実施意向調査

検 討 の 意 向				実践型インターンシップ実施形態（複数回答）						
検討	不可	未定	未回答	業務体験	課題解決	業務改善	研究参加	プロジェクト	卒業研究	その他
30	13	5	14	24	17	6	11	10	1	0

（3）　インターンシップミーティングの実施　(継)

インターンシップの参加率の向上と実効性あるインターンシップの実施を目的に、インターンシップ受け入れ企業と参加希望学生とのコミュニケーションステージとしてインターンシップミーティングを実施した。

◇　インターンシップミーティング実施状況　　（　）はＨ２８年度の実績

会　場	開催日	学生数	企業数	参加大学
北九州市立大学	6 月　8 日(水)	24 名(46)	9 社 (9)	北九大 19 名･早稲田 5 名
九州工業大学	6 月 11 日(土)	50 名(51)	15 社(16)	九工大 15･西工大 27･高専 8

（3）　大学別インターンシップセミナーの拡充実施（括弧はＨ２６・H25 年度）

フォーラム事業と体系化した各大学別インターンシップセミナー等を実施した。

◇　大学別インターンシップ推進セミナー(ガイダンス)実施状況
（　）はＨ２８年度/Ｈ２７年度参加数

九州工業大学	北九州市立大学	西日本工業大学	国立北九州高専
245 名(422･280 名)	97 名(120･89･名)	260 名(187･213 名)	205 名(200･250 名)

（4）　「学生のための北九州企業発見ツアー」の実施

北九州商工会議所の産業観光事業と連携して企業見学ツアー事業を実施した。

◇　北九州の企業発見バスツアーの実施状況

実施内容	九工大	北九大	西工大	高　専	早稲田	計
【第 1 回】H28 年 8 月 18 日(木) (株)安川電機　/　(株)フジコー	3	9	2	0	3	17
【第 2 回】H28 年 9 月 14 日(水) (株)石橋製作所　/　TOTO(株)	5	4	0	0	3	12
【第 3 回】H28 年 9 月 21 日(水) 三島光産(株) /(株)戸畑ターレット/日産自動車九州(株)	3	2	1	0	4	10
合　　計	10	16	3	0	4	39

２）「地域連携型インターンシップ」の運営システムの拡充・整備

（１） 形態別インターンシップの運営体制の整備（新）

① 研修型インターンシップ運営大学コンソーシアムの運営

インターンシップ連携大学のインターンシップ担当教員及び学務・キャリアセンター責任・担当者による事業運営コンソーシアムを編成し、インターンシップの実効性の拡充と運営環境づくりを行った。

◇ 協議事項抜粋

- 学部２年生のインターンシップ実施の検討及びH29 年度実施の決定。
- 学生のインターンシップ参加率向上のための情報提供システムの研究。
- 連携校における地域連携型インターンシップの制度的取扱いに関する情報交換。
- H29 年３月卒業予定者の就職支援事業の実施（H28 年 10 月）及びH29 年度における連携校合同企業説明会の開催計画の決定。

② 実践型(長期)インターンシップ研究プロジェクトの編成

H29 年度における実践型(長期)インターンシップの実施に向けて、事業モデル策定と連携校の環境調査を行い、H29 年度のプロジェクト編成準備を実施した。

（２）「地域連携型インターンシップ」のビジネスモデルの整備・拡充（継）

連携校によるインターンシップコンソーシアムを通じて、地域連携型インターンシップのビジネスモデルの拡充に関する研究を行うと共に、インターンシップ実施企業の運営ノウハウと体制整備についての実践的な検討を行った。

（３） 専用ウェブサイトによるインターンシップ事業のシステム化の促進（継）

ホームページを活用したインターンシップ事業の運営の効率化に向けたシステム構築を目指したが、H28 年度の実施がならず次年度に繰り越すこととした。

３）「地域連携型インターンシップ」事業の地域プロモーションの実施

（１） 地域連携型インターンシップ実践セミナーの開催 （継）

地域連携型インターンシップの運営方法の研究成果の共有と事業の周知を図ることを目的に「インターンシップ実践セミナー」を開催した。

① 開催概要

- 開催日時：平成 28 年５月 26 日　１４：３０～１７：３０
- 会　　場：北九州国際会議場　国際会議室
- 参加者数：73 人(大学 11 人、企業 49 人、行政６人、その他７人)

② 内　容

◇ 事例発表

- インターンシップが採用に繋がった事例：濱田重工(株) 人事ｸﾞﾙｰﾌﾟ長　志賀 健一 氏
- 課題を持ったインターンシップの事例：(株)ウチダ 取締役統括部長　大原 大平 氏
- 地域貢献としてのインターンシップ事例：計測検査(株) 代表取締役　坂本 敏弘 氏
- ICT 系人材育成のインターンシップ事例：(株)ﾗﾝﾃｯｸｿﾌﾄｳｴｱ代表取締役　庄司 裕一 氏

◇ パネルディスカッション

（パネリスト）

- インターンシップ実施企業　事例発表者
- インターンシップ連携校（北九州高専 キャリア支援室長　内田 武　教授）
- インターンシップ参加学生（九工大・西工大・北九大・北九州高専）
- コーディネーター：産業人材育成ﾌｫｰﾗﾑｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ研究ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾘｰﾀﾞｰ 佐藤 明史 氏

（2）　「地域連携型インターンシップガイドCD(改訂版)」の作成　(継)

「地域連携型インターンシップ事業」の運営マニュアルとインターンシップ関連情報を収録した事業ガイドCD－ROMを改定発行し、新規参画企業及びセミナー等で配布した。(150 枚)

4）　インターンシップ研究プロジェクトの運営

事業の開発環境に対応した研究プロジェクトの編成を行うこととし、「留学生のための地域連携型インターンシップ」についての事業企画研究を行うための体制づくりを行った。

2．社会人育成プログラム事業の企画、運営

中堅・中小企業の中核専門技術人材及び経営・管理人材のスキルアップ、リカレント教育を目的に、地域大学の制度環境を活用した「社会人育成プログラム」の企画開発及び事業化を実施した。

1）　中堅・中小企業の中核技術人材育成に向けた環境開発

九州工業大学の社会人プログラム及び産学連携センターとの連携による中堅・中小企業の中核専門技術人材の育成のための事業開発及び事業化に向けた環境づくりを実施した。

（1）　北九州ドクターチャレンジプログラムの事業化の推進　(継)

フォーラム事業の協働企業 200 社に対して、九州工業大学の社会人プログラムのパンフレット等の配布を行うと共に、北九州テクノサポートによる勧誘広報を実施。

- 九州工業大学社会人プログラム参加状況：三島光産３名

（2）　北九州テクニカルカレッジ事業の事業化の推進　(継)

①　テクニカルカレッジ事業の試行の継続

制度環境の整備、事業のフィジビリティの確認のための試行事業を実施。

- 実施企業：岡野バルブ工業(株)

②　テクニカルカレッジの運営のための制度環境整備の実施

H27 年度より環境づくりを行って来た、九州工業大学におけるテクニカルカレッジ実施のための制度として「学術指導制度」の設置が成り、九州工業大学のイノベーション推進機構における本格的事業実施に向けて対体制づくりを行った。

また、産業人材育成フォーラムの対応として、北九州テクノサポートによる同事業のプロモーション実施について環境整備を行った。

2）　中堅・中小企業の経営・管理者育成に向けた環境開発　(継)

北九州市立大学大学院マネージメント研究科（K２BS）と連携した、産業人材育成のための事業の企画・開発と環境づくりを行った。

（1）　「MBAサテライトフォーラム」の企画・実施　(継)

H28 年度が北九州市立大学大学院マネージメント研究科創設 10 周年に当たり、10 周年記念事業が開催されたため、協議してサテライトフォーラム事業は中止した。

（2）　MBAホルダーによる白熱講座の企画、実施　(継)

製造業の経営・技術者であるMBA ホルダーによる「技術系学生のための経営実践講座」のモデルカリキュラムを作成し、フォーラム連携校における活用・実施についてフィジビリティの確認作業を行うと共に、北九州市立大学 K2BS の OB 及び教員等による「マネージメント研究会」との連携による事業運営スキームの構築を行った。

（3）　ケーススタディメソッドによる中小企業の経営研究講座の実施　(改)

地域中小企業の経営課題の解決のためのプログラムとして、「経営継承」「事業再編」「新事業創出」について学ぶ、実践的な経営研究講座の計画をしたが、北九州市立大学大学院マネージメント研究科の体制が整わないために計画を中止し、H29 年度に向って事業の再検討を行うこととした。

３） 社会人育成プログラム研究プロジェクトの運営 （継）

「社会人プログラム」及び「ＭＢＡ活用プログラム」のプロジェクトの再編については、事業企画の改変と具体化に合わせ、H29 年度中に再編を行うこととした。

３．青少年育成プログラム事業の企画、運営

早期工学教育(ものづくり教育・キャリア教育・理数・科学リテラシー向上教育)の環境開発のための調査及び関連機関のネットワークづくりを行うと共に、北九州産業技術保存継承センター(KIGS)と有機的連携を行い、事業の持続的運用が可能な環境創りを実施した。

１） 早期工学教育関連事業情報のソリューション機能の構築

北九州市における早期工学教育関連情報の集約とその活用の環境づくりを実施した。

（１） 早期工学教育関連事業情報の専門サイトの設置と活用環境づくりの推進 （継）

北九州地域で開催されている科学・工学系イベント計画情報を集約し、学校関係・市民を始めとした関係者へ広く告知し、積極的に活用頂くための環境づくり目的として共有 WEB サイト「かがくの玉手箱（かがたま）」立ち上げと運用のしくみの構築をした。

（２） 早期工学教育関連情報の集約・活用のための連絡協議の実施 （新）

「かがくの玉手箱（かがたま）」の運営のために、関係機関等による連絡会議を編成した。
また、北九州市立大学経済学部の学生を中心に事業の運営等の支援サークルを編成した。
（ 構成機関 ：九州工業大学（理数教育支援センター）・北九州工業高等専門学校・西日本工業大学(情報デザイン学科)・北九州市立児童文化科学館 ・北九州イノベーションギャラリー等 ）

２） ものづくり教育のコンテンツと教育システムの研究・開発の実施

KIGS と連携して、北九州地域の産業、技術のポテンシャルを活かしたものづくり教育のコンテンツ、及び事業の企画開発と運営ノウハウの実証的研究を行い、産学連携による早期工学教育のコンテンツづくりを行った。

（１） ものづくり教育モデル事業の企画、開発の実施 （新）

今後の『地域で最適な教育システムの構築』を進めていくにあたり、先行して北九州イノベーションギャラリー等の教育関連機関と連携して事業の運営方法とモデル化を進めた。

① ICT を活用したデジタルファブリケーションプログラム開発とトライアル実施

・最新鋭の工作機械を導入した KIGS デジタル工房を７月９日にオープンし、夏休みを中心に各 FabLab とも協業でデジタル工作体験イベントを多数開催

② 大学と地域で協業する『未来の航空科学技術フロンティア人材育成関連事業』実施
(2015 年後期～2017 年度までの３年間実施の文部科学省委託事業)

・主管：九州工業大学 理数教育支援センター、講師： 北九州高専
・小学生が対象の航空クラブ：児童文化科学館
・中学生が対象の飛行ロボットクラブ：北九州イノベーションギャラリー

③ 地域の工学系大学生が企画・実施するものづくり教育プログラム開発と実施

・地域の工学系大学生が企画、実施するものづくり教育プログラムを九州工業大学の学生チームで実施

④ 教員を対象とした『ものづくり体験プログラム』実施

・教育課程の中への落とし込みにつなぐため、夏休み期間中に学校教員によるものくり体験プログラムを３つ開催実施。
ⅰ）ダイソン教員向けワークショップの実施
ⅱ）中学技術家庭科教員対象の KIGS 工作体験と安川電機見学の実施
ⅲ）小中一般教職員対象の KIGS 工作体験と安川電機見学

（2） ものづくり教育の在り方に関する研究の実施 （新）

北九州地域におけるものづくり教育の在り方と事業化について研究を行う、「北九州地域ものづくり教育の在り方に関する研究会(仮称)」の運営を考慮して、青少年育成プログラム研究プロジェクトの編成を行った。また、経済産業省の「理工系人材育成に関する産学官行動計画」及び文部科学省の「理工系人材育成戦略」等について、政策的環境の調査、研究を行った。

3） 産業人材育成フォーラム関連企業による教育支援事業の実施

（1） 「北九州の企業人による小学校応援団」事業と連携したものづくり教育の実施(継)

ものづくり教育のための出前授業の協力（講師登録）について、フォーラム登録企業への協力要請を行い、「北九州の企業人による小学校応援団」事業と連携した事業運営を行った。

（2） 中学生のインターンシップ事業の企画・開発の実施 （新）

H27 年度のアンケート実施結果を踏まえ、光継会等の業界組織と中学校の職場体験学習の実施についての環境づくりを行った。

4） 藤田哲也博士をコンテンツにした教育プログラムの企画

（1） 藤田哲也博士をコンテンツにした教材等の開発 （継）

H27 年度に教育スタンダードに採択された藤田哲也博士に関する学習教材及び広報ツールとして、藤田哲也博士記念会が作成した“藤田哲也博士解説パンフレット”の活用と理科研究会教員への配布を行った。

5） 青少年育成プログラム研究プロジェクトの運営 （改）

青少年育成プログラムの企画、運営を総括するオーガナイザーとして北九州イノベーションギャラリー館長を選任し、青少年育成プログラム研究プロジェクトの強化と再編を行った。

4. 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

北九州市の「まち・ひと・しごと創生戦略」や「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COCプラス）」等の地方創生戦略との連携を促進し、フォーラム事業の政策的位置づけを強化すると共に、地域の経済団体等との連携の促進を図った。

1） フォーラム事業の地域システム化に向けた環境づくりの推進、整備

（1） 産業人材育成フォーラム企業会員の募集と組織化の実施 （継）

企業会員の募集と組織化については、事業の周知不足や運営体制の未整備等もあり懸案を解決するに至らなかった。フォーラム事業の体系が概ね確立するH29 年度において、組織的な募集活動を実施することとする。

（2） 地域の経済団体等との連携・支援体制の整備促進 （継）

フォーラム事業の地域化を促進し、事業運営の組織基盤を強化するため、地域の経済団体・業界組織等との連携を促進する。

① 福岡経済同友会 北九州地域委員会との連携

福岡経済同友会の産業人材育成にかかる提言を踏まえ、青少年育成プログラムの推進について連携体制の構築を図った。

・平成 28 年度第２回運営会議（H29 年３月８日・観山荘）で事業説明実施

② 福岡県人材育成産学官コンソーシアムへの参画

福岡県による「福岡県産業人材育成コンソーシアム」の構成組織として、県下大学等との情報交流を行い、フォーラムと連携した産業医科大学のインターンシップについて、新しい環境開発の端緒を開いた。

（3） 地方創生戦略等と連携したフォーラム事業の展開 (新)

北九州市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び北九州市立大学の推進する「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」等と連携し、地域戦略としてのフォーラム事業の拡充と政策的位置づけの確立を図った。

① 「地方創生インターンシップモデル事業」の活用

北九州市による「地方創生インターンシップモデル事業」を活用し、「実践型(長期)インターンシップの実施マニュアル及び実行計画の編成を行った。

- 負担金予算 ：2,000 千円　　• 業務委託先：北九州テクノサポート

② 北九州・下関まなびとぴあ(COC プラス)と連携した連携校合同説明会の計画の編成

これまで実施してきた九州工業大学における学内企業説明会を、「ものづくりベストワン企業説明会」としてフォーラム連携校に拡大し、H29 年度実施をするための調整および計画編成を行った。

（4） フォーラム事業の拡充と円滑運営に向けた運営体制の改変 (新)

各プロジェクト事業の事業化促進と自律的運営のための環境づくりとして、北九州イノベーションギャラリー館長を青少年育成プログラムのオーガナイザーとし、今後のフォーラム事業の拡大向けた運営体制の整備を行った。

2） フォーラム事業の広報システムの構築とプロモーション事業の実施

（1） 「イノベーションネットアワード 2017」の優秀賞の受賞

地域における新事業・新産業創出を目的とする優れた企業支援の取組みを評価、普及するための表彰制度である「第６回地域産業支援プログラム表彰事業（イノベーションネットアワード 2017）」において、優秀賞を受賞した。

＜ 受賞理由 ＞

北九州地域の工学系教育機関と中堅・中小企業の連携を軸として、地域が一体となって産業人材育成の支援を行っている。産業集積の厚みを活かした人材育成を推進するだけでなく、企業の経営力強化に資する地域産業支援策となっており、産学官の連携強化による人材育成として、持続的に地域産業の活性化に貢献している。

＜ 地域産業支援プログラム『イノベーションネットアワード』表彰とは ＞

各地域における新事業・新産業創出に向けた優れた取組みを評価することにより、自主的な地域産業の振興・活性化を促進するとともに、他の地域においてもこうした先進事例を取り込むことにより、主体的に地域産業の振興・活性化の「流れ」を創ることを目的に平成 23 年度に創設。

（2） 「産業人材育成セミナー＆産学交流会」の開催 (継)

地域の工学系大学関係者と地域企業の交流機会を創出するための産学交流会を、地域連携型インターンシップ実践セミナーのアフターコンベンションとして実施したが、参加者の動員が不調に終わり、企画の再構築の必要性を確認した。

- 開催日時：平成 28 年５月 26 日　14：30～17：30
- 会　　場：フラミンゴカフェ（AIM ビル2F）
- 参加者数：47 人

（3） 北九州地域企業学内説明会の実施 (改)

H28 年 10 月に連携校合同企業説明会を計画したが、就職率の好転で、就職未定学生数が過少で、環境が整わず中止し、H29 年度実施に向けた環境調整を行った。

（4） 「北九州産業人材育成フォーラム」ホームページの運用 （継）

ホームページを活用したフォーラム事業の運営のシステム化とプロモーション機能の拡充を図ると共に、関連大学及び企業等とのリンクによるソリューション化を進め、産業人材育成に関する専門情報機能としての拡充を図った。

（5） 産業人材育成フォーラム事業の地域内外プロモーションの実施 （継）

北九州地域の産業活性化にかかるフォーラム事業の必要性と事業内容を周知するため、フォーラム関連組織との連携をはじめ、各種の方法を駆使した事業のプロモーションを実施した。

① プレスリリースの実施

- 地域連携型インターンシップ実践セミナー＆顔の見える産学交流会プレスリリース
- イノベーションネットアワード 2017 優秀賞受賞プレスリリース

② 関係機関による広報

・イノベーションネットアワード 2017 受章関係プレスリリース
経済産業省 HP・全国イノベーション推進機構ネットワーク HP・日本の研究＞COM・共同通信 PR ワイヤーほか

・地方創生会議 2016 年版記事掲載

③ 関係機関への事業説明及び事業調整等

・早稲田大学事業調整（H28 年７月 29 日）
・福岡女学院大学（H28 年８月 23 日）
・産業医科大学事業調整（H28 年 11 月 11 日）

④ 関係機関による調査対応

・日本立地センター（全国イノベーション推進機構ネットワーク）調査（H28 年 11 月９日）

⑤ 外部機関への広報・講演等

・築地会講演（H28 年５月 25 日）
・苅田自動車産業振興協議会（H28 年８月３日）
・福岡県人材育成産学官コンソーシアム設立総会（H28 年 10 月７日）
・イノベーションネットアワード 2017 プレゼンテーション（H29 年１月 13 日）
・イノベーションネットアワード 2017 授賞式講演（H29 年２月 24 日）

⑥ その他

・九州工業大学イノベーション推進機構 NEWS
・北九州テクノサポート 2016 年レポート

3） 各種関連調査及び統計の実施

フォーラム事業の実施評価及び関連事項のトレーサビリティーの確保のために、インターンシップ関係、就職関係等、フォーラム事業に関連する各種調査及び統計を実施した。

（1） インターンシップ関係調査・統計

・地域連携型インターンシップ実施前学生意向調査（全大学：関係学部全学生）
・地域連携型インターンシップ参加意向学生の意向調査（全大学：ＩＳﾐｰﾃｨﾝｸﾞ参加学生）
・地域連携型インターンシップ実施前企業意向調査（ＩＳミーティング参加企業）
・地域連携型インターンシップ実施後学生の意向調査（全大学：ＩＳ実施学生）
・地域連携型インターンシップ実施企業の事業実施後状況調査（ＩＳ実施全企業）
・連携大学・高専におけるインターンシップ実施状況調査(全大学：全学部)
・地域企業におけるインターンシップ実施状況調査(実施企業選抜)
・学生のための企業発見ツアー実施状況調査(バスツアー参加学生)

（2）就職率関係調査・統計

- 連携大学・高専における地元就職状況調査(全大学：全学部全学科別)
- 地域連携型インターンシップ参加学生の地元就職状況調査(全大学：全学部)

平成 28年度産業人材育成フォーラム 決算

	項　目	H28予算額	H28決算額	決算の増減	内　　訳
収入	1)負担金	5,700,000	7,700,000	2,000,000	
	①北九州市	4,700,000	6,700,000	2,000,000	地方創生インターンシップモデル事業計画負担金
	②北九州活性化協議会	1,000,000	1,000,000	0	
	2)会費	2,700,000	1,947,000	▲ 753,000	
	①企業会員	1,200,000	600,000	▲ 600,000	企業負担金@30,000×20社
	②大学･高専	1,200,000	1,200,000	0	大学等会費@300,000×4校
	③交流会	300,000	147,000	▲ 153,000	産業人材育成セミナー･推進会議
	3)雑収入	400	60,059	59,659	
	①預金利息		59	59	銀行利息,
	②企業見学ﾊﾞｽﾂｱｰ補助		60,000	60,000	北九州商工会議所企業見学ﾊﾞｽﾂｱｰ補助金
	4)前年度繰越金	0	312,077	312,077	
	【収入合計】	8,400,400	10,019,136	1,618,736	

	項　目	H28予算額	H28決算額	H28決算の増減	内　　訳
支出	1)人件費	240,000	246,575	6,575	
	①事務局担当人件費	0	0	0	
	②雑給	240,000	246,575	6,575	臨時的雇用職員人件費
	2)謝金	200,000	0	▲ 200,000	
	①専門家謝金	200,000	0	▲ 200,000	
	3)旅費	250,000	242,887	▲ 7,113	
	①近距離旅費等	100,000	242,887	142,887	近距離旅費、市内、遠距離旅費、その他
	近距離旅費	50,000	57,688	7,688	
	遠距離旅費	50,000	169,625	119,625	ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｱﾜｰﾄﾞ2017受章関係等
	タクシー利用料	0	15,574	15,574	
	②専門家招聘旅費	150,000	0	▲ 150,000	
	4)委託料	5,390,000	7,222,600	1,832,600	
	①KTS業務委託	2,160,000	3,660,000	1,500,000	KTS　業務委託料(研修型ISｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ/地方創生IS計画編成)
	②KPEC業務委託	3,080,000	3,487,000	407,000	KPEC　フォーラム管理費･地方創生ISモデル事業管理費
	③その他業務委託	150,000	75,600	▲ 74,400	HP修正料等その他業務委託料
	5)その他経費	2,320,400	1,873,152	▲ 447,248	
	①会場借上げ料	300,000	108,360	▲ 191,640	産業人材育成ｾﾐﾅｰ＆顔の見える産学交流会
	②印刷費	450,000	474,336	24,336	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ関係資料･ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ等
	③通信運搬費	120,000	118,395	▲ 1,605	郵送費･切手代等
	④事務消耗品費	200,000	277,922	77,922	事務用消耗品費、ISｶﾞｲﾄﾞCD　等
	⑤会議費	100,000	78,665	▲ 21,335	会議関係飲み物代　等
	⑥交流会費	330,000	147,000	▲ 183,000	交流会経費
	⑦使用料及び賃借料	800,000	648,072	▲ 151,928	工場見学バス代、事務局関係諸費負担額
	⑧雑費	20,400	20,402	2	振込手数料　等
	【支出合計】	8,400,400	9,585,214	1,184,814	
	次年度繰越金	0	433,922	433,922	

別紙２

北九州の企業人による小学校応援団

平成２８年度事業報告書

Ⅰ　支援事業の推進

１ 支援対象校の拡大

年次目標に基づき、支援対象校を７０校（平成２７年度）から１００校に拡大した。（対象校の選定は教育委員会）

＜年次目標＞　平成２９年度　市内全小学校（１３１校）

２　支援事業の継続実施

⑴ 出前授業・研修の実施とテーマの拡大への取組み

企業等の協力を得て、支援対象校の児童への出前授業、教職員・保護者（ＰＴＡ）向けの研修等を実施した。実施件数（小学校応援団への申込分）は、２０３件（２７年度　１２９件）となり２７年度に比べ増加した。なお、申込んだ学校は７４校である。

出前授業・研修のテーマについては、平成２８年度当初に小学校に提示したテーマは、出前授業・研修の全体で延べ１０６件（２７年度　８０件）である。また、テーマ（講師）の拡大については、その後も参加企業や各種団体への呼びかけを行った結果、増えてきている。

⑵ 親学の奨励、ＰＴＡ活動への支援

① 親学奨励

これまで、小学校応援団としての親学の定義や親学が関係者に浸透していくための取組みの具体策（活動内容、目標や成果等）などをまとめていくための方法、手順等を検討してきた。

その結果を踏まえこれらの点をまとめるための検討の場として、有識者による研究会を設けた（３月６日）。

また、保護者（家庭教育学級など）に対して、子どもとのコミュニケーションのポイント等に関する研修を行った。

② ＰＴＡ総会、学校開放週間への参加促進

関係団体（小学校応援団、ＰＴＡ協議会、校長会）の連名でＰＴＡ総会への参加について、小学校応援団参加協力企業に対して保護者である従業員への呼びかけを依頼し、またすべての小学校を通じて直接保護者に呼びかけた。更には学校開放週間への参加についても、参加協力企業に対して保護者である従業員への呼びかけを依頼した。

⑶　小学校及びＰＴＡに対する小学校応援団事業のＰＲの推進

新年度における出前授業や研修の利用を促進するため、新年度前の２月に、現年度の小学校応援団の実績（テーマごとの利用状況（利用数、利用学校名））、新年度のテーマ（予定）、システムの利用方法等を、全小学校、全ＰＴＡに送ってＰＲした。また、その際、出前授業・研修を利用した小学校からの感想や出前授業を通じて生まれた児童のより良い変化等をまとめた資料も送付し、利用者の生の声と効果について伝えた。なお、新年度当初も事務局から直接及びコーディネーターを通じて同様のＰＲを行うこととしている。

３　小学校長との意見交換会の実施

小学校応援団の支援活動をより実りあるものとして継続実施できるようにするためには、学校現場の意見を直に聞きながら活動を進めることが重要である。そこで、平成２８年８月、小学校長との意見交換会を実施した。

＊参加者

- 校長　　市小学校長会長及び各区から校長１名（計８名）
- 教育委員会　　指導部長、主幹ほか（計４名）
- 小学校応援団　代表、副代表、義務教育支援委員会副委員長、委員（計５名）
- 北九州活性化協議会　専務理事

＊結果

- 応援団の現在の活動については評価しているとの意見であった。
- 今後の活動に関する主な意見として、申込みの少ない保護者向け研修については保護者への周知が大事である、申込みの期限はもっと余裕をもたせた方がよいなどの意見があった。（そこで、保護者向け研修の申込みの期限は、平成２９年度からは、４月末から５月末まで延長することとする。）

４　広報活動

⑴　平成２８年６月、ホームページを開設し、公開した。

（内容）小学校応援団の設立経緯、役員構成、参加協力企業、平成２７年度の活動紹介、応援団への参加や講師就任のお願い等

⑵　小学校応援団の取組みに対する企業等の理解を深め、協力の輪を広げるため、関係団体（北九州商工会議所、北九州中小企業経営者協会、北九州貿易協会、西日本工業倶楽部、北九州青年会議所、北九州青年経営者会議）を通じて広く企業に対し、パンフレット（２８年度作成。１,０００部）等による広報活動を行った。また、ロータリークラブで卓話を行った。（３団体）

更に、ＫＰＥＣニュースやネットワーク北九州（北九州産業学術推進機構・中小企業支援センター発行）で活動内容を広報した。

５　支援事業管理システムの充実

支援事業の申込みから実施、報告に至るまで、各学校と事務局等が情報を常に共有し、支援事業の活用と運営管理を円滑・効率的に行うことができるよう、平成２７年４月にパソコンシステムを立ち上げた。その後、利用関係者からも意見を聞き、より使い勝手の良いものとするため必要な改良を行い、平成２８年４月から改良後のシステムが稼働してシステムは完成した。

平成２８年度は、学校側にとっての使い勝手だけでなく、事務局側が学校の利用状況をより効率的に把握できるようにするため等の手直しも行った。

Ⅱ　支援体制の整備

１　参加協力企業等の拡大に向けた取組み

講師となっている企業をはじめ参加協力企業等は、２６１社となった。

（２７年度　２２９社）

２　学校担当コーディネーターによるサポート体制の充実

小学校をサポートし、事務局と小学校との間をつなぐ架け橋として支援事業の周知と進捗状況の管理等を主に行うコーディネーターについて、支援対象校の拡大に伴い、増員（Ｈ２７　１５名→Ｈ２８　１９名）し、サポート体制の充実を図った。（シニアネット北九州及び夢追い塾（同窓会）の協力による。）また、学校への対応に関する認識や情報の共有等を図るため、コーディネーター会議を行った。

（コーディネーターの業務）

コーディネーターは、４月に入って担当小学校への訪問等により、小学校応援団の支援事業やパソコンシステムの使い方等を説明し、円滑に支援事業の申し込みができるためのサポートを行い、その後は学校からの小学校応援団への要望等のヒアリング、出前授業等の参観や学校が行うシステムへのデータ入力状況のチェック等を行っている。

３　三者調整会議の開催

小学校応援団の支援事業の現状について共通認識を図るとともに、方針に関する調整等を行うため、北九州市立小学校の教育支援に関する協定書（平成２５年４月１日締結）に基づき、北九州市教育委員会及び北九州活性化協議会との三者調整会議を開催した。

北九州の企業人による小学校応援団　平成２８年度決算

（平成２８年4月１日～平成２９年3月３１日）

単位：千円

収入

項目	当初予算額	決算額	摘要
負担金	5,000	5,000	北九州市　4,000 北九州活性化協議会 1,000
利息			＊３４円
計	5,000	5,000	

支出

項目	当初予算額	決算額	摘要
支援事業費	５００	４５７	講師謝金
コーディネーター業務費	1,050	1,004	費用弁償等
広報･プロモーション推進費	1,000	９５２	パンフレット作成等広報費、ホームページ・システムの充実等
企画管理費	1,550	1,331	企画管理業務
事務局経費	９００	８２９	通信運搬費、交通費、消耗品費、事務室等使用経費等
計	5,000	4,573	

＜説明＞

予算執行残について

執行残４２７千円については、北九州市と北九州活性化協議会に、負担金拠出割合比率に応じて返還する。

KIGS
KITAKYUSHU INNOVATION GALLERY & STUDIO

別紙３

北九州イノベーションギャラリー

平成２８年度事業報告書

KIGS
KITAKYUSHU INNOVATION GALLERY & STUDIO

【施設概要】

◆ 施設名称　北九州産業技術保存継承センター
　北九州イノベーションギャラリー （KIGS）

◆ 所在地　北九州市八幡東区東田 2 丁目 2 番 11 号

◆ 施設概要　敷地面積 2.4ha　延床面積 約 3,100m²
　本館（年表のギャラリー、企画展示場、プレゼンテーションスタジオ他）
　工房棟（金属加工設備、木工加工設備、3D-CAD/CAM）

◆ 指定期間　平成 27 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日

Ⅰ. 事業概要　1～ 4

Ⅱ. 教育普及事業　5～ 15

Ⅲ. 企画展示事業　16～19

Ⅳ. 調査研究事業　20～21

Ⅴ. 図書・映像等の収集、制作、公開事業　22～25

Ⅰ．事業概要

北九州イノベーションギャラリー(以下「ＫＩＧＳ」）の施設管理・運営については、公益財団法人北九州活性化協議会（以下「ＫＰＥＣ」）が第三期指定管理者として、平成２７年４月から単独にて５年間の施設管理・運営を受託。その２年目となる平成２８年度については、下記の基本方針のもと各種事業を精力的に展開すると共に、官営八幡製鐵所の世界文化遺産登録の紹介とあわせて、当地固有の歴史的風土と、そこに蓄積してきた「人材」「技術」「産業遺産」の３つの資産を活用し、企画展の開催や市民セミナー・見学ツアー等様々なイベントを意欲的に実施した。

◆地域において培われた産業技術とその心を継承する。

日本が先進工業国へと成長する過程で、北九州は数多くの技術革新を経験し、技術・技能やこれらを支える経営・管理ノウハウなど膨大な知見を蓄積してきた。これらの財産を可能な限り調査し、保存・継承に努める。

◆イノベーションを促進する環境を整え、イノベーターを育成する。

優秀な技術者、熟練技能者、デザイナーおよび大学の研究者などと連携し、技術動向やデザインなどの情報を提供するとともに、産学官の技術交流の場を提供することで、産業技術に対して幅広い視野を有し、知識融合等によるイノベーションを推進しうる人材の養成に取り組む。また、社会人再教育として、実践に必要な幅広い基礎知識の強化に取り組む。

◆次世代イノベーターを育成する。

産業技術や基礎科学の重要性について、青少年の理解を高め、技術やデザインへの探究心を育む。

◆技術者ＯＢの経験を活かす。

北九州市には、技術革新に関わった技術者が多く在住している。彼らの経験を活用し、技術の知と心の継承を行う。

◆多様なネットワークを構築する。

地域の企業および大学等高等教育機関のみならず、内外の博物館や研究機関と連携することで、高度な専門性を確保しつつ、サービスの内容や質の向上を図る。

◆固有の価値・魅力を発信する。

「イノベーションをテーマにした国内唯一の施設」としての当施設の独自性、魅力を高め、それを内外に発信していく。

【主な活動概況】

１　教育普及事業

主要講座であるイノベーションフォーラム(年 1 回)、技術革新セミナー（年２回)、デザインセミナー（年２回）は、若手技術者等新たな顧客層を開拓するため、時代の流れに即したものをテーマに設定し著名な講師を招いて開催した。また、これらの企画にあたっては、国内最先端技術を有する企業の協力やクリエーターにも参画頂き、最先端のイノベーションに関する情報を提供し、その結果一歩踏み込んだ理解と意識改革の醸成をすることが出来た。

世界遺産登録関係では、世界遺産登録にともなう旅行会社の旅行プランへの組み入れ提案などの積極的な働き掛けを行った。

技術革新セミナーでは、現在大きな潮流となっているコンピュータ技術に関する「未来をひらくスーパーコンピュータ　～「京」、そしてその先へ～　」「人工知能のインパクト　～人と社会の未来を考える～」を開催し、200名越える参加者があった。

7月1日にオープンしたKIGSデジタル工房では、企画展連動ミニ体験においてもデジタル工房で製作した部材を利用したワークショップを実施するなど、各種プログラムを推進した。

なお、これまでのニーズに合わせたプログラムや地道な誘致活動により、年間教育プログラム参加人数が過去最高値となった。

また、中学生や高校生などの若者が次世代のイノベーターとして成長するよう、まずは中学校の教員を対象とした「ものづくり教員研修」を実施した。

2　企画展や特別展等の展示事業

前年度冬より引き続き「2015年度グッドデザイン賞 in 北九州」を4月10日まで開催し、その後、「時を刻む～"かたち"になった人類の英知～」を開催した。夏には、「いっしょに楽しむ　デジタルワンダーランド PART1、PART2」を開催した。先端技術について、家族で楽しみながら体験出来る大がかりな仕立てとし好評を博したものの、予算に限りもあり展示点数が限られたことについてアンケート等で指摘を受けた。秋には、実験いろいろ！おどろき体験「未来へ夢はずむ～ゴムのちから展」を開催した。冬には、「磨き抜かれた職人の技～北九州技の達人展」を開催した。これは、長年にわたり技能の研鑽や後進の育成に励み、卓越した技能で"ものづくりのまち北九州"の発展を支えてきた方々を市が認定・表彰する制度『北九州技の達人』の10回目認定を控え、歴代認定者20名の作品を展示し、実演も交え好評を博した。

北九州市の近代化遺産シリーズパネル展の第二弾として、「北九州市発展基盤となった交通・土木及び文化遺産」を当初の予定より期間を延長し開催した。

その他、特別展においても、フリースペースをうまく使って、地元の話題や歴史に関わるもの、当館を拠点としてものづくりやデザイン等に取り組む団体の作品展等、バラエティに富むテーマ・内容の展示を精力的に行った。

3　調査研究事業

国立科学博物館との共同研究においては、国産独自設計の機械式腕時計からクオーツ腕時計、そして更なる高精度化を求めた技術開発について、「時計技術」の系統化調査を行った。

委託研究においては、地元技術士会はじめ、地元企業に対し合計2件の調査研究委託を行った。製鉄に欠かせない耐火物について「北九州における耐火物技術の歴史と発展」として北九州の技術革新の歴史を調査・研究した。また、北九州の主要な産業技術の調査研究に加え、北九州から少し視野を広げた領域のテーマにも調査研究を広げていくことにしており、その一つとして当館で企画・実施した企画展のテーマの先行調査として、「天然及び合成ゴムの技術的歴史と発展」を調査・研究した。

4　図書・映像の収集及び公開、産業映像の制作

当施設の設立目的に沿った図書及び映像の収集に努めた。また、その公開を積極的かつ迅速に実施することにより、来館者に対して量的・質的向上とサービスアップを図ったほか、新着本のホームページでの公開やメールマガジンで紹介するなどライブラリーの利用促進を継続した。さ

らに、ライブラリー入口にはイベントに合わせて来館者の興味を引く図書を配架した。

また、産業映像の収集について、20 作品の DVD を購入した他、日本宇宙フォーラムから 13 作品の寄贈を受けた。

産業映像は、鉄の進化をけん引した耐火材の技術・製品開発を北九州企業の発展の歴史とともに技術革新物語としてまとめ、「鉄の進化を支えた炉材革命」（約 26 分）を一般市民にも分かり易い形で制作した（日・英・中・韓の 4 カ国語）。

産業映像の公開は、平成 27 年度に製作した「発電プラントの動脈を操る～高温・高圧バルブの開発物語」（約 23 分）を、6 月の市民セミナーで取り上げ一般公開した。また、当館への訪問団体に向け、個別にプログラムした保有映像の上映を積極的に行った。

５　貸出スペースの稼動アップや芝生広場の有効利用

“開かれた館”を目指し、多目的かつ有効なスペース提供を通じ、利用者のサービス向上に努めた。

7 月 9 日（土）には来客層の拡大を図るために、デジタル工房をオープンし、記念講演会とトークセッションを開催した。これに伴い、本工房で安価に材料などを製作できる体制が整ったので、オリジナルな材料を使ったデジタルものづくり教室やワークショップの開催が可能となり、アクセサリーの制作など、よりデザイン性の高い「ものづくり」が可能となる環境が整備され、体験いただける工作の幅が広がった。10 月 14 日（金）からはデジタル工房の会員登録制による個人利用を開始した。

【成果】

上記の積極的事業展開、活発な広報・集客活動の結果、計画した最低限の数値目標は全て達成出来た。

◆計画数値目標の達成状況

入館者数	**計画　６５，０００名**	**実績　６６，２１８名**	**（計画比　１０１．９％）**
企画展観覧者	**計画　１８，５００名**	**実績　２１，９４９名**	**（計画比　１１８．６％）**
教育プログラム参加者数	**計画　１２，０００名**	**実績　１７，２６７名**	**（計画比　１４３．９％）**

【利用者の声に見る主要事業の評価】

当館の運営及び各種事業展開にあたっては、当施設が公共施設としての役割を果たすため、幅広くアンケートを収集し、それらの分析結果を反映することにより、公正公平な満足感の提供を心がける必要がある。本年度収集した利用者の主な声を抜粋・要約のうえ、総括した。

◆施設全般アンケート

「年表ギャラリーの文字が小さい」という意見が１件あるのみで、「このイノベーションギャラリーを全国に知らせるためにアピール（CM など）したらいいと思います」という意見をいただいている。なお、①館内の雰囲気が良い　②スタッフが親切と、利用者の満足度が前年の 89.7%から 92.0%に増加している。

◆教育普及プログラム参加者アンケート

本年度も全般的にマイナス評価及び致命的な苦情は見当らなかった。

(1)各種講座

技術革新セミナー、デザインセミナー、市民セミナーなどは、企画・対応について概ね好評であった。

また、①講師の声が小さい　②時間が長かった、短かった　③暑かった、寒かった　などを含め、物理的に対応できる苦情はフレキシブルに改善している。

(2)ワークショップ、各種イベント

親子工作教室、イノベーションツアー、サマースクールなどの参加型イベントは、企画・運営・料金・対応について概ね好評であり、それぞれリピーターも多い。マンネリ化しないよう、新たにテーマなどを工夫し実施した。

7月にデジタル工房がオープンしたことにより、3Dプリンタやレーザーカッターなどのデジタル工作機械をメインに活用したワークショップを多数企画したが、いずれも非常に好評である。一方、人気であるが故に、予約がすぐに埋まってしまい「もっと参加枠を増やしてほしい」という声を多数いただいた。とくに好評であった「ビー玉迷路づくり」は夏休み限定のイベントとして企画したが、要望に対応し秋冬と計3回実施した。

3Dプリンタとレーザーカッターの機材講習会と個人利用を10月中旬より開始し、現在レーザーカッターは37名、3Dプリンタは9名が受講し会員となっている。パソコンでのデータ作成の難易度への評価は、とても簡単・簡単が46.4%、とても難しい・難しいが28.5%と個人差が大きいようだった。

(3)団体向けプログラム

滞在時間が確保できれば参加団体はさらに増加すると思われる。

また、工房における金属加工体験は社会科見学や修学旅行等の学校団体に好評であり、学校設備ではできない体験ができることへの感謝の言葉をいただいている。

今後は、さらに喜ばれる独自のプログラムやメニューを提案できるよう、開発に努めていく。

◆企画展観覧者アンケート

来館者傾向を総括すると、「市内在住が55%から70%、30歳代以上が変わらず82%、自家用車利用での来館が57%から72%」と、市外からの一般団体観覧者は減少した。10歳代と20歳代の来館者比率は一昨年に比べて1割近く減少したままである。

満足度については、一昨年の90%から昨年88%、今回は86%とほぼ横ばいから若干低下傾向が見える。“観覧料金について割高である”という評価が、昨年の22.6%から30.0%と7.4ポイント上がっており、一昨年に近い状態に戻っている。これは、料金300円が定着したためであると思われる。

声としては、①セイコーミュージアムに行きたいと思っていた。②実際に体を動かして体験できるのがすごく良かった。③あまり目につかないゴムをテーマにしていて面白かった。水素ステーションやコマツの大型ダンプのタイヤとか北九州との関連を感じられた。④北九州の技を通して人材づくりをすすめていく良い企画である。⑤地域の特徴をよく理解し保存する信念に感動した。等、肯定的な意見が支配的だが、一部に①ガイドのようなものが欲しい。スマートフォンを使用した案内等。②イベントの規模に比べて料金が割高。③ＤＶＤによる説明で、音がよくきこえなかったので、字幕がついていると良い。④ライティングが悪く、作品をよく見ることができない。⑤各ビデオ説明の所にいすがあれば良かった。⑥素敵な作品のすぐ前に赤いテープがあって、それごしに見るのが少しもったいないなと思った。等、真摯に受け止め、改善を要すべき点も少なくなかった。

Ⅱ. 教育普及事業

教育プログラムへの参加者数は目標 12,000 人に対して実績が 17,267 人(目標達成率 143.9%)となり、昨年の開館以来過去最高人数 15,858 人(目標達成率　132.2%)を更に上回る参加数を達成し、最高人数を更新した。目標を大幅に超えることができた要因として①昨年から継続している世界遺産登録に伴う旅行会社の旅行プランへの組み入れ提案など積極的な働きかけ(クラブツーリズム、阪急交通社、読売旅行など)、②時代の流れに即した技術革新セミナー(スーパーコンピュータ、人工知能 AI)の開催による若手技術者など新たな顧客層の開拓、③ものづくりの新たな取り組みとして 7 月 1 日（金）にオープンした KIGS デジタル工房機能を活用した各種プログラムの推進によるところが大きい。特に③のデジタル工房関連プログラムでは 2,050 名の参加者数を記録し、企画展連動ミニ体験でもデジタル工房で製作した部材を利用したワークショップの実施により 1,411 名が体験し、合計 3,461 名になった。また、デジタル工房会員は延べ 46 名(3D プリンタ　9 名、レーザーカッター 37 名)になった。

企画展連動イベントとして秋企画展展示場内で開催した実験教室への参加が 1,013 名となったことも大いに貢献している。

一方、中学生や高校生など次世代のイノベーター創出に向けての活動はこれまでと同様に行っているものの、学校の授業・教科の中への落とし込みの実現が難しく、その手掛かりとするべくまずは中学校の教員を対象としたものづくり教員研修を実施した。また、技能継承としての北九州マイスター技能伝承クラブとの協業活動も一部始めてはいるものの、回数、参加者数という視点でもまだまだ不十分であり、更なる活動強化を図っていく必要がある。

1　フォーラム、企画展連動講話

(1)イノベーションフォーラム

開催日時	内 容	講 師	参加人数
10 月 10 日 14:00～15:30	テーマ「人を楽しませる『しくみ』の話」	中村 俊介　(株)しくみデザイン代表取締役 芸術工学博士	56 名

計 56 名

(2)地域ものづくり未来フォーラム

開催日時	内 容	講 師	参加人数
3 月 19 日 10:00～11:30	講演会テーマ 「ファブ施設とメーカースペースのこれまでとこれから」	田中 浩也　慶應義塾大学 環境情報学部 教授	67 名
3 月 19 日 14:30～17:30	テーマ別ディスカッション 「教育・ビジネス・国際協力・地域資源・MAKERS・ファブリサーチ」	柳瀬　隆志/(株)グッディ 代表取締役 渡辺　ゆうか/(一社)国際 STEM 学習協会　代表他	128 名

計 195 名

(3)企画展連動講演会

開催日時	内 容	講 師	参加人数
第 1 回 4 月 8 日 17:30～18:30	【講演会】「デザインができること、これからのデザイン」	青木 俊介/ユカイ工学(株)代表	110 名
第 2 回 4 月 23 日 13:30～15:00	【講演会】「時計とイノベーション」	渡邉 淳/セイコーミュージアム館長	87 名
第 3 回 11 月 19 日 11:00～12:30	【講演会】「あらゆる製品を支えるゴム～最新の技術、応用例など」	山口　幸一/関西ゴム技術研究所所長 元日本ゴム協会会長	54 名

計 251 名

2　講座、セミナー、技能講習など

(1)技術革新セミナー

開催日時	内　容	講　師	参加人数
第1回 4月9日 13:00～14:30	「未来をひらくスーパーコンピュータ ～「京」、そしてその先へ～　」	辛木　哲夫/理化学研究所　計算機科学研究機構	101名
第2回(10/22) 15:00～16:30	「人工知能のインパクト　～人と社会の未来を考える～」	小林　雅一/(株)KDDI総合研究所	101名

計 202 名

(2)デザインセミナー＆フェア

開催日時	内　容	講　師	参加人数
1月29日 13:00～16:20	デザインセミナー 「韓国伝統パッチワーク　ポシャギの制作」	KDA デコレーター　とよた　ゆき 照明演出家　園田　まりこ	25名
2月17日 17:30～19:00	デザインセミナー 「地域デザインを通して持続可能な地域づくり」	岩下　陽一/(株)クロスポイント地域デザイン研究室 九州国際大学地域連携センター客員研究員	16名

計 41名

(3)ＫＩＧＳ市民セミナー

開催日時	内　容	講　師	参加人数
第1回 6月4日 13:30～14:30	「発電プラントの動脈を操る　～高温高圧バルブの開発物語」 第1部　映像上映24分、 第2部　関連講話35分	濱田信善 岡野バルブ製造(株)　技術部	33名
第2回 2月3日 10:00～11:00	市民セミナー 「小倉組子コースターづくり」	村本　裕作/村本建具製作所 代表取締役/北九州技の達人	14名
第3回 2月4日 10:00～11:00	市民セミナー 「小倉組子コースターづくり」	村本　裕作/村本建具製作所 代表取締役/北九州技の達人	23名
第4回 2月11日 13:00～14:30	市民セミナー 「幕末のトップを走った科学・技術」	南里　昌芳/佐賀県立佐賀城本丸 歴史館　学芸担当主査、学芸員	58名

計 128名

(4)ものづくりセミナー

開催日時	内　容	講　師	参加人数
第1回 7月8日 9:00～10:00	出前講座(小倉工業高等学校) 「安全作業の基本～自校での実習・企業での実習に向けて」	柴田　悟/ (株)安川電機　労政・安全部長	207名
第2回 7月9日 14:00～16:30	講演会「モノづくり・ヒトづくり・マチづくり」 (デジタル工房オープニング記念関連)	渡辺　ゆうか/FabLab 鎌倉代表代表 渋谷　健/フィールド・フロー(株)　代表	35名
第3回 9月16日 10:00～12:00	出前講座(穴生学舎) 現代の産業とものづくりⅠ「プロフェッショナルを考える」	園田　澄利/KIGS 調査研究室長	36名
第4回 10月8日 13:00～13:40	出前講座(北九州国際会議場) 北九州市の世界文化遺産と技術の継承	鹿毛　浩之/KIGS 館長	78名

計 356名

(5)北九州マイスターセミナー

第1回 7月9日 11:00～12:00	北九州マイスターセミナー (デジタル工房オープニング記念関連)	生野マイスター	15名
第2回 10月7日 14:00～15:00	北九州マイスターセミナー あやめが丘小学校『学校大好きオンリーワン事業』	有松マイスター	57名 (児童27名 教員30名)

第 3 回 10 月 11 日 15:00～16:30	北九州マイスターセミナー(北筑高校) 「キャリア教育(職業人交流会)」	村上マイスター 市川　慶輔/KIGS 教育普及・開発室長	281 名
第 4 回 3 月/18 日 13:00～16:00	Metal Fab Workshop	生野マイスター/村上マイスター	14 名

計 367 名

(6)調査研究報告会

開催日時	内　容	講　師	参加人数
第 1 回 11 月 19 日 13:00～15:00	「コークス技術の系統化調査」	中村　正和/国立科学博物館元主任調査員	83 名
第 2 回 2 月 18 日 13:00～15:00	「北九州における鋳造技術の歴史と発展」	宮田　守次/ミヤタハイメック品質技術研究所 【事例紹介】 ①和田　洋二　山九(株)、②松永　榮八郎三菱重工環境・化学エンジニアリング(株)、③恵良　秀則　九州工業大学教授	67 名
第 3 回 3 月 18 日 13:00～14:30	「北九州における高温・高圧バルブ技術の歴史と発展」	濱田　信善/岡野バルブ製造(株)　技術部	63 名

計 213 名

(7)共催イベント(ワークショップ)

開催日	内　容	共催団体名	参加人数
4 月 2 日	共催シンポジウム 共同研究発表、例会	公益社団法人日本技術士会北九州支部 CPD	33 名
5 月 21 日	共催ワークショップ 「飛行ロボットクラブ　第Ⅰ期　DAY1」	九州工業大学	13 名
6 月 11 日	共催シンポジウム 共同研究発表、例会	公益社団法人日本技術士会北九州支部	30 名
6 月 18 日	共催事業 「縁の力で時代を生き抜く」	北九州ものづくり光継会	71 名
6 月 12 日	共催ワークショップ 「飛行ロボットクラブ　第Ⅰ期　DAY1.5」	九州工業大学	7 名
6 月 26 日	共催ワークショップ 「飛行ロボットクラブ　第Ⅰ期 DAY2」	九州工業大学	12 名
7 月 14 日	共催事業 「北九州メンテナンス技術研究会(KME)、KIGS 合同公開セミナー」	北九州メンテナンス技術研究会(KME)	42 名
7 月 16 日	共催シンポジウム 共同研究発表、例会	公益社団法人日本技術士会北九州支部	37 名
7 月 17 日	共催ワークショップ 「飛行ロボットクラブ　第Ⅰ期　DAY3」	九州工業大学	11 名
7 月 24 日	共催ワークショップ 「飛行ロボットクラブ　第Ⅰ期　DAY3.5」	九州工業大学	6 名
7 月 31 日	共催ワークショップ 「飛行ロボットクラブ　第Ⅰ期　DAY4」	九州工業大学	12 名
8 月 27 日	共催シンポジウム 共同研究発表、例会	公益社団法人日本技術士会北九州支部	38 名
8 月 28 日	共催ワークショップ 「飛行ロボットクラブ　第Ⅰ期　DAY4.5」	九州工業大学	11 名
9 月 17 日	共催シンポジウム 共同研究発表、例会	公益社団法人日本技術士会北九州支部	34 名
9 月 11 日	共催ワークショップ 「飛行ロボットクラブ　第Ⅰ期　DAY4.6」	九州工業大学	11 名
9 月 25 日	共催ワークショップ 「飛行ロボットクラブ　第Ⅰ期　DAY5」	九州工業大学	13 名

10 月 16 日	共催ワークショップ 「飛行ロボットクラブ　第Ⅱ期 DAY1」	九州工業大学	13 名
11 月 19 日	共催シンポジウム 共同研究発表、例会	公益社団法人日本技術士会北九州支部	80 名
11 月 27 日	共催ワークショップ 「飛行ロボットクラブ　第Ⅱ期 DAY2」	九州工業大学	18 名
12 月 17 日	共催シンポジウム 共同研究発表、例会	公益社団法人日本技術士会北九州支部	51 名
12 月 25 日	共催ワークショップ 「飛行ロボットクラブ　第Ⅱ期 DAY3」	九州工業大学	14 名
1 月 17 日	共催シンポジウム 共同研究発表、例会	公益社団法人日本技術士会北九州支部	44 名
1 月 22 日	共催ワークショップ 「飛行ロボットクラブ　第Ⅱ期 DAY4」	九州工業大学	14 名
1 月 27 日	北九州市民カレッジ①導入講座 「メイドインジャパンの誉れを辿って」	北九州市立生涯学習総合センター	71 名
2 月 3 日	北九州市民カレッジ② 「ニッスイパイオニア館」	北九州市立生涯学習総合センター	36 名
2 月 10 日	北九州市民カレッジ③ 「わかちく史料館」	北九州市立生涯学習総合センター	36 名
2 月 17 日	北九州市民カレッジ④ 「ゼンリン地図の資料館」	北九州市立生涯学習総合センター	34 名
2 月 18 日	共催シンポジウム 共同研究発表、例会	公益社団法人日本技術士会北九州支部	37 名
2 月 21 日	共催ワークショップ 「飛行ロボットクラブ　第Ⅱ期 DAY4.5」	九州工業大学	12 名
2 月 24 日	北九州市民カレッジ⑤ 「KIGS 企画展、多目的店、館長講話」	北九州市立生涯学習総合センター	24 名
2 月 26 日	共催ワークショップ 「飛行ロボットクラブ　第Ⅱ期 DAY5」	九州工業大学	14 名
3 月 12 日	共催ワークショップ 「飛行ロボット製作にチャレンジ (高校生対象)」	九州工業大学	21 名
3 月 18 日	共催シンポジウム 共同研究発表、例会	公益社団法人日本技術士会北九州支部	34 名

計　934 名

3　各種ワークショップ、イベント

(1)ＫＩＧＳ(研究)倶楽部

開催月	回数	内容	講師	参加人数
4 月～翌年 3 月	第 1･3 土曜日 計 21 回	「帆船模型倶楽部セーリングシップ」 一般社会人による、正確縮小帆船模型の製作活動	会員活動	476 名
9 月	1 回	「低炭素社会システム研究会」 一般社会人による、低炭素社会システムの研究、発表会	会員活動	8 名

計　484 名

(2)親子工作教室

開催日時	内容	参加人数	開催日時	内容	参加人数
5 月 8 日 10:00～12:00	工房　40名(有料数:14名)　「牛乳パックソーラーランタンを作ろう」 (株)イーケイジャパン 参加費:1200 円	40 名	9 月 17 日 13:30～15:30	「回路であそぼう！電子スズムシ」講師／九州工業大学衛星開発プロジェクトメンバー　参加費:1000円	24 名

5 月 8 日 13:00～16:00	工房　37名（有料数：14名）「金属探知機を作ろう」（株）イーケイジャパン　参加費：1800 円	37 名	10 月 29 日	電子工作「RCドレミ」鉛筆と金属板で音と光をあやつろう！ ヒューマンアカデミーロボット教室　参加費：1500円	13 名
9 月 25 日 10:00～15:00	北九州空港「よくとぶヒコーキ作り」 ＊講師：KIGS スタッフ 参加費：無料	115 名	10 月 30 日	電子工作「RCドレミ」鉛筆と金属板で音と光をあやつろう！ ヒューマンアカデミーロボット教室　参加費：1500円	11 名
9 月 17 日 10:00～12:00	「回路であそぼう！電子スズムシ」講師／九州工業大学衛星開発プロジェクトメンバー　参加費：1000 円	31 名			

計　271 名

(3)企画展連動イベント・ワークショップ

①春企画展「時を刻む～“かたち”になった人類の英知～」

開催日	内　容	講師	参加人数
5 月 28 日 午前	「腕時計をつくってみよう」 工房　参加費：3500円 ＊小学3－6年生親子	セイコーミュージアム	34 名
5 月 28 日 午後	「腕時計をつくってみよう」 工房　参加費：3500円 ＊小学3－6年生親子	セイコーミュージアム	35 名

計　69 名

②秋企画展連動（実験いろいろ！おどろき体験「未来へ夢はずむ～ゴムのちから展」）

開催日	内　容	講師	参加人数
11 月 20 日 午前	ふしぎ体験教室「ゴム博士と実験」 多目的スペース　参加費：無料	古川睦久／長崎大学名誉教授	28 名
11 月 20 日 午後	ふしぎ体験教室「ゴムのちからで作って飛ばそう」 多目的スペース　参加費：500円	松岡忠夫／工房自由空間代表	32 名

計　60 名

③冬企画展　磨き抜かれた職人の技「北九州技の達人」展

開催日	内　容	講師	参加人数
3 月 25 日 14:00～16:00	「技の達人とつくる！手づくり MY 掛け軸」ワーク B 大人向け参加費：1000円	猪ヶ倉　勝盛／北九州技の達人	7 名
3 月 26 日 10:00～12:00	「技の達人とつくる！手づくり MY 掛け軸」ワーク B 小学生向け　参加費：1000円	猪ヶ倉　勝盛／北九州技の達人	9 名

計　16 名

(4)KIGS デジタル工房オープン記念ワークショップ

開催日	内　容	講師	参加人数
7 月 9 日	「ポーズを決めろ！マイシルエット・オブジェを作ろう！」3 回 10:00～11:00、13:00～14:00、15:00～16:00　参加費：無料	KIGS スタッフ、デジタル工房	36 名
7 月 10 日	「ポーズを決めろ！マイシルエット・オブジェを作ろう！」3 回 10:00～11:00、13:00～14:00、15:00～16:00　参加費：無料	KIGS スタッフ、デジタル工房	31 名

計　67 名

(5)デジタルものづくり教室

開催日	内　容	講師	参加人数
7 月 16 日	「作って、飛ばせ！！！羽ばたき飛行機」2 回 10:00～11:30、14:00～15:30　参加費：500円	FabLab 北加賀谷、デジタル工房	27 名
7 月 23 日	「伝導糸を使って光るきんぎょバッチをつくろう！」2 回 10:00～12:00、14:00～17:00　参加費：500円	FabLab 大宰府、デジタル工房	24 名
7 月 30 日	「遊んで！学んで！数学パズルで宝探し！！！」2 回 10:00～12:00、14:00～17:00　参加費：500円	FabLab 佐賀、デジタル工房	22 名
8 月 26 日	出前／西日本総合展示場新館 「北九州ゆめみらいワーク」 10:00～17:00　参加費：無料	KIGS スタッフ	159 名

8 月 27 日	出前／西日本総合展示場新館「北九州ゆめみらいワーク」 10:00～16:00　参加費：無料	KIGS スタッフ	150 名
8 月 13 日	「織り機を作って、ハタオリしよう！」2 回 10:00～11:30、14:00～17:00　参加費：500円	KIGS スタッフ、デジタル工房	32 名
8 月 20 日	「ビー玉迷路をつくろう！」2 回 10:00～12:00、14:00～16:00　参加費：500円	KIGS スタッフ、デジタル工房	35 名
9 月 17 日	「めずらしいアクリル板を使って、かわいいオリジナルアクセサリーをつくろう！」2 回 10:00～12:00、14:00～17:00　参加費：1000円	KIGS スタッフ、デジタル工房	18 名
9 月 18 日	「めずらしいアクリル板を使って、かわいいオリジナルアクセサリーをつくろう！」2 回 10:00～12:00、14:00～17:00　参加費：1000円	KIGS スタッフ、デジタル工房	16 名
10 月 8 日	「ビー玉迷路をつくろう！」2 回 10:00～12:00、14:00～16:00　参加費：500円	KIGS スタッフ、デジタル工房	41 名
11 月 26 日	「クリスマスツリーを作ろう！」 2 回 10:00～12:00、14:00～16:00　参加費：1000円	KIGS スタッフ、デジタル工房	37 名
12 月 4 日	「光るポップアップカードをつくろう！」2 回 10:00～12:00、14:00～16:00　参加費：500円	Fab Lab 佐賀、デジタル工房	33 名
12 月 18 日	「オリジナルのスタンプでクリスマスカード＆年賀状をつくろう！」 2 回 10:00～12:00、14:00～16:00　参加費：500円	Fab Lab 山口、デジタル工房	29 名
2 月 11 日	「ビー玉迷路をつくろう！」2 回 10:00～12:00、14:00～16:00　参加費：500円	KIGS スタッフ、デジタル工房	40 名
2 月 5 日、12 日、19 日、26 日	「レーザーカッターの講習を兼ねたオリジナルアクセサリー作り、KAWAII LABO」4 回　2/5　5 名、2/12　6 名、2/19　6 名、2/26　4 名　10:00～12:00　参加費：3,500 円	KIGS スタッフ、デジタル工房	21 名
3月 5 日	「レーザーカッターの講習を兼ねたオリジナルアクセサリー作り、KAWAII LABO」上記の最終日、10:00～12:00	KIGS スタッフ、デジタル工房	3 名
3月20日	1. 予約制 A：「モーターをつくろう」37 名、B：「小さなエモシージャ」43 名、C：「きらきらアクリルブローチ」41 名、D：「写真から作る思い出ぼんぼり」40 名、E：「スリットカードで動物づくり」39 名、2. つくれるコーナー①ポンポン船 124 名②ガーランド 320 名③モンスターキーホルダー278 名、3. 遊べるコーナー	イーケイジャパン、FabLab 博多、木のおもちゃ工房あおむし、北九高専、西南女学院短大、帆船模型倶楽部セーリングシップ、ものづくり工房技術室、さかわ発明ラボ	922 名

計　1,609 名

(6)東田サマースクール 2016　＊参加人数は、KIGS 利用日のみの合計

開催日	内　容	参加人数
第 1 期 7 月 26 日～29 日	1 日目　北九州イノベーションギャラリー ・工房工作、企画展、映像、企画展、高炉 2 日目　環境ミュージアム　・・・展示見学・エコ工作教室等※教育Pカウント外 3 日目　いのちのたび博物館・・・化石レプリカ作成・博物館見学等※教育Pカウント外 4 日目　北九州イノベーションギャラリー ・デジタル工作、修了式	延べ 47 名
第 2 期 8 月 2 日～5 日		延べ 47 名
第 3 期 8 月 9 日～12 日		延べ 48 名

計　142 名

(7)東田たたらプロジェクト 2016（市民たたら）　＊企業有志、学生チームも同時操業

今回の操業も例年同様 2 釜で実施した。また、1 月 29 日（日）の製品化イベントでは、「コールベル」を製作。作業工程や手作業を充実させたアイテムを考案した。

開催日時	内　容	詳　細	参加人数
11 月 27 日 9:00～17:00	本操業(東田第一高炉にて)	「親子製鉄本操業体験」 親子 42 名、企業 10 名、学生 22 名 (ケラ製造量、赤班:5.2kg/黄班:3.2kg)	74 名
1 月 29 日 13:00～16:00	製品化(工房にて)	「たたら☆コールベル」作り 曲げ、加工を体験	43 名

計　117 名

(8)イノベーション見学ツアー

世界遺産に登録された施設や産業遺産、文化施設を巡る見学ツアーを催行。市交通局旅行センターのバスを利用した。

開催日	内 容	参加人数
第１回 8 月/26 日	TOTOミュージアム、安川電機未来館、企画展を見学する「夏休み親子スタディーツアー」 対象:小学5年～高校生親子　参加費:親子1組2，000円	21 名
第２回 12 月 8 日	「ムーンスター、ブリヂストン久留米工場の見学」ゴムの企画展開催に合わせてゴム工場見学 対象:一般　＜参加費:4，500 円＞	25 名
第３回 3 月 15 日	「神宿る島・宗像、沖ノ島神宝と関連遺産群めぐり」むなかた郷土文化学習交流館、宗像大社神宝館 辺津宮周辺、新原・奴山古墳群、津屋崎千軒周辺、手光波切不動古墳、KIGS 企画展 対象:一般　解説員:宗像大社　砂場氏　参加費:4，500円	23 名

計　69 名

(9) 中学生向けワークショップ

①中学生企業訪問ワークショップ

部活を基盤に声かけし、夏休みに実施。館に縁遠い中学生普及テコ入れの一環として実施した。

開催日	内 容	参加校	参加人数
8 月 24 日	「安川電機」の企業工場見学後、KIGS 企画展、工作体験実施	北九州市立上津役中学校	19 名

②中学生インターンシップ

学校からの依頼があり、世界大会出品の修正アシストを実施。

開催日	内 容	参加校	参加人数
3 月 16 日	学校からの依頼があり、イノベーター育成のため、川崎指導のもと工房にて「木製 CNC」調整、モディフィケーション実施 ※日本学生科学賞　文部科学大臣賞受賞作品	小倉日新館中学校　西宮直志	1 名

計　20 名

(10) 高校生向けワークショップ

普通高校にはマナー研修や業務体験を行い、工業高校には旋盤や溶接等の基本技能を実際の製品作りでどう活用するか、実践的な作業を多数経験できるようにした。

開催日	参加校	内 容	参加人数
10 月 26 日 ～27 日	若松高等学校	1 日目 9:30～15:30　施設説明、見学、マナー研修、業務体験８名　2 日目 9:30～16:10　館長講話、業務体験、団体対応８名　＊8 名×2 日間	16 名
12 月 7 日 ～9 日	戸畑工業高等学校機械科２年生	安全講習、技能実習、製品作り 旋盤、溶接などの実技を主体にマイスターも講師に交え実践的な作業体験　＊3 名×3 日間実施	9 名
12 月 14 日 ～16 日	戸畑工業高等学校機械科２年生	安全講習、技能実習、製品作り、旋盤、溶接などの実技を主体にマイスターも講師に交え実践的な作業体験 ＊3 名×3 日間実施	9 名

計　34 名

(11) 中学校・高校教員実習

開催日	内 容	講 師	参加人数
7 月 28 日	北九州市内中学校技術家庭科研究会教員研修 「ダイソン問題解決型ワークショップ」	ダイソン株式会社	20 名
8 月 3 日	北九州市内中学校技術家庭科研究会教員研修	北九州マイスター/KIGS 職員	15 名
8 月 18 日	教員10年経験者研修プログラム研修　1 日目、KIGS概要説明、館内見学、ものづくり体験(八幡高校1名、門司学園高校1名、若松高校2名の教員)	KIGS 職員	延べ 4 名
8 月 19 日	教員10年経験者研修プログラム研修　2 日目、団体対応、自主制作映像解説、館長講話(八幡高校1名、門司学園高校1名、若松高校2名の教員)	KIGS 職員	延べ 4 名
8 月 25 日	北九州市内小中学校教員研修	北九州マイスター/KIGS 職員	11 名

計　8 名

(12)「世界一行きたい科学広場 in 北九州 2016」

東田 3 館および市内中学校、高校、近隣との連携イベント ＊全館・芝生広場にて実施(他館の来場者は除く)

開催日	内 容	共催団体名	参加人数
8 月 6 日	① 「“作って遊ぶ”夏休み工作メニュー紹介＆実演」 小倉工業高校 11:00～12:00、14:00～15:00 Pスタ 参加費:無料 149名 ② 「プラスチックってなんだろう？」積水化学グループ 10:00～11:30、13:30～15:00 工房 参加費:無料 79名 ③ 「プロとデザインする！MY置時計」 北九州総合デザイナー協会(KDA)10:00～16:00 ワークB 参加費:1500円 15名 ④ 「プロとデザインする！MY印鑑」 北九州総合デザイナー協会(KDA)13:00～15:00 多目的スペース 参加費:600円 26名 ⑤ 「オリジナルアプリをつくろう」 しくみデザイン 10:30～12:00、13:30～15:00 デジタル工房 参加費:無料 69名 ⑥ 「くらしの科学～実験＆エコ工作」 九州山口CO2カウンセラー協会 13:30～15:00 環境ミュージアム 参加費:200円 22名	小倉工業高校 北九州工業高等専門学校 北九州総合デザイナー協会(KDA) 九州山口 CO2 ｶｳﾝｾﾗｰ協会 積水化学グループ 帆船模型倶楽部セーリングシップ	360 名
8 月 7 日	大集合実験教室、体感 de 実感！二重丸ブース in 芝生広場、ステージ実験ショー、ロボット操作デモ 、空中コマ＆紙ヒコーキ MYペットボトルキャップ、ペットボトルロケット、地震体験車 10:00～15:00 Pスタ、工房、多目的、芝生広場	北九州工業高等専門学校、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)指定校/東筑紫学園高校、照曜館中学校、戸畑高校、小倉高校、北九州総合デザイナー協会(KDA)、北九州市消防局	941 名

計 1,301 名

(13)実践型インターシップ 大学生向け

開催日	内 容	参加校	参加人数
8 月 16 日、17 日、18 日、19 日、20 日	「工房にて講習、工作指導訓練」 8:40～17:20	北九州工業高等専門学校 5 名	25 名

計 25 名

(14)デジタル工房「機材利用講習会」 レーザーカッター 3D プリンター利用講習

開催月	内 容	参加人数
10 月	10月15日(土) 10:00～12:00 デジタル工房 7名(レーザーカッター) 10月20日(木) 10:00～12:00 デジタル工房 1名(レーザーカッター) 10月27日(木) 11:00～15:00 デジタル工房 1名(レーザーカッター) 10月29日(土) 15:30～17:00 デジタル工房 1名(3Dプリンター) 参加費:2000円	延べ 10 名
11 月	11月10日(木) 10:00～14:00 デジタル工房 1名(レーザーカッター) 11月13日(日) 10:30～12:40 デジタル工房 1名(レーザーカッター) 11月23日(水) 10:00～11:00 デジタル工房 1名(レーザーカッター) 11月23日(水) 14:00～15:00 デジタル工房 1名(3Dプリンター) 11月24日(木) 13:30～15:00 デジタル工房 3名(レーザーカッター) 11月30日(水) 10:30～12:00 デジタル工房 2名(レーザーカッター) 11月30日(水) 13:00～14:30 デジタル工房 2名(3Dプリンター) 参加費:2000円	延べ 11 名
12 月	12月 3日(土) 10:00～12:00 デジタル工房 1名(レーザーカッター) 12月23日(金) 10:00～12:00 デジタル工房 1名(レーザーカッター) 12月24日(土) 13:00～14:00 デジタル工房 1名(レーザーカッター)参加費:2000円	延べ 3 名
1 月	1月 13日(金) 9:30～11:00 デジタル工房 1名(3Dプリンター) 1月 18日(水) 16:00～17:20 デジタル工房 6名(レーザーカッター) 1月 19日(木) 13:30～15:00 デジタル工房 1名(レーザーカッター) 1月24日(火) 15:00～16:30 デジタル工房 1名(レーザーカッター) 1月26日(木) 13:00～14:30 デジタル工房 2名(レーザーカッター) 1月29日(日) 9:30～12:00 デジタル工房 2名(レーザーカッター、 3Dプリンター) 1月29日(日) 13:00～14:30 デジタル工房 1名(3Dプリンター) 1月29日(日) 14:30～17:00 デジタル工房 1名(レーザーカッター)参加費:2000円	延べ 15 名
3 月	3月12日(日) 10:00～11:30 デジタル工房 1名(レーザーカッター) 14:00～15:30 デジタル工房 1名(レーザーカッター) 3月31日(金) 10:00～11:00 デジタル工房 1名(3Dプリンター) 11:00～12:00 デジタル工房 1名(レーザーカッター)参加費:2000円	延べ 4 名

計 43 名

(15)デジタルものづくりセミナー

開催日時	内 容	講 師	参加人数
3月3日	「3Dプリンターの技術及び樹脂材料解説と生産現場における活用事例セミナー」講演会 14:00～16:00 個別相談会 16:00～17:00	金子 高／株式会社リコー	48 名

計 48 名

4 個人、団体向け教育プログラム

(1)個人向けプログラム

①「ものづくりミニ体験」

開催月	回数	内容	参加人数
4 月	4 回	「KIGSオリジナル日時計を作ろう」 ※春企画展連動	24 名
5 月	11 回	「KIGSオリジナル日時計を作ろう」 ※春企画展連動	158 名
6 月	8 回	「KIGSオリジナル日時計を作ろう」 ※春企画展連動	198 名
7 月	2 回	「KIGSオリジナル日時計を作ろう」 ※春企画展連動	37 名
	9 回	「デコって楽しい☆カラフルキーホルダー」 ※夏企画展連動	272 名
8 月	26 回	「デコって楽しい☆カラフルキーホルダー」 ※夏企画展連動	821 名
9 月	10 回	「デコって楽しい☆カラフルキーホルダー」 ※夏企画展連動	186 名
1 月	3 回	「デコって楽しい☆カラフルキーホルダー」	28 名
2 月	8 回	「デコって楽しい☆カラフルキーホルダー」	43 名
3 月	8 回	「デコって楽しい☆カラフルキーホルダー」	61 名

計 89 回 1,828 名

②「おどろき実験コーナー」

開催月	回数	内容	参加人数
10 月	4 回	秋企画展「未来へ夢はずむ ゴムのちから展」場内にて実験教室を実施	197 名
11 月	10 回	秋企画展「未来へ夢はずむ ゴムのちから展」場内にて実験教室を実施	453 名
12 月	7 回	秋企画展「未来へ夢はずむ ゴムのちから展」場内にて実験教室を実施	363 名

計 21 回 1,013 名

③「デジタル工作体験会」

開催月	回数	内容	参加人数
10 月	4 回	会員入会前のデジタル工作機械体験会(キーホルダー等の製作)	18 名
11 月	1 回	会員入会前のデジタル工作機械体験会(キーホルダー等の製作)	1 名
12 月	1 回	会員入会前のデジタル工作機械体験会(キーホルダー等の製作)	2 名
1 月	2 回	会員入会前のデジタル工作機械体験会(キーホルダー等の製作)	3 名

計 8 回 24 名

(2)企業団体向けプログラム

開催月	主な団体、団体数		参加人数
4 月	大光炉材㈱、日鉄住金電磁㈱九州工場、日本鋳鍛鋼㈱	3 団体	25 名
5 月	吉川工業㈱、日鉄住金物流八幡㈱	2 団体	13 名
6 月	吉田時計店	1 団体	38 名
7 月	吉川工業㈱、日新製鋼労働組合周南支部	2 団体	32 名
9 月	九昭電設工業㈱	1 団体	25 名
10 月	黒崎播磨㈱	1 団体	13 名

計 10 団体　146 名

(3)一般団体向けプログラム

開催月	主な団体、団体数		参加人数
4 月	西小倉婦人会、周防シニアクラブ、イオン九州㈱、他	4 団体	97 名
5 月	高槻市民センター、近畿日本ツーリスト姫路、福退教福岡支部、他	10 団体	259 名
6 月	博多工業高校PTA、日本塑性加工学会九州支部、他	17 団体	416 名
7 月	名古屋空港ビルディング㈱、㈱ゼンリン ナビDB製作部、東筑花の会、他	9 団体	314 名
8 月	芦屋町花美坂子供会、北九州第 2 あゆみの里、西本町児童館、他	10 団体	333 名
9 月	阪急交通社大阪、中津市如水コミュニティーセンター、他	16 団体	583 名
10 月	筑豊市民大学講座、北九州市上海事務所中国企業訪問団、他	11 団体	319 名
11 月	ライオンズクラブ国際協会 337-A地区レオクラブ、他	14 団体	383 名
12 月	日本ゴム協会九州支部、読売旅行関東国内旅行部、他	14 団体	643 名
1 月	大牟田市石炭産業科学館、九州工業大学公開講座、他	6 団体	144 名
2 月	小倉南ヴィラガーデン、天理教鞍直支部婦人会、他	3 団体	41 名
3 月	甘木区会長会、山口育児院、テックパークキッズ、他	7 団体	119 名

計 121 団体　3,651 名

(4)学校団体向けプログラム

開催月	主な団体、団体数		参加人数
4 月	西日本工業大学デザイン学部、東筑高校理科部・八幡高校科学部	2 団体	59 名
5 月	佐賀市立諸富中学校、タイ大学教員研修、北九州市立高校、他	7 団体	484 名
6 月	浜田市立松原小学校、戸畑工業高校、近畿大学産業理工学部、他	5 団体	320 名
7 月	敬愛中学校、北九州中央高等学園、東鳴水学童保育クラブ	3 団体	136 名
8 月	小倉日新館中学校科学部、大阪商業大学、豊国学園高校、他	6 団体	129 名
9 月	福岡工業高校、柳西中学校、広島北特別支援学校小学部、他	7 団体	512 名
10 月	大分県立日田高校SSH研修、韓国ダルソ高校、中間市立中間小学校、他	12 団体	526 名
11 月	広島大学総合博物館、与那原町立与那原中学校、鞘ケ谷小学校、他	11 団体	502 名
12 月	長野県田川高校、熊本市立湖東中学校、韓国海洋大学校、他	7 団体	430 名
1 月	北九州工業高等専門学校、熊本県立東稜高校、韓国昌原大学校、他	4 団体	161 名
2 月	門司中学校	1 団体	104 名

計 65 団体　3,363 名

【自己評価と今後の課題】

教育プログラムへの参加者数が前年度を上回る過去最高を更新したことは、これまでの運営経験をもとにした活動改善が大きく貢献しており十分に評価できると考える。今後の活動の課題としては、①世界遺産登録など地域のリソースを活用した東田エリアの他施設との連携による誘引策強化、②北九州地域産業人材育成フォーラム活動と連携した義務教育段階世代の取り込み、③各工業系大学への働きかけ強化による北九州マイスターの活用拡大などが挙げられる。また、これまでのアンケート結果なども参考にしながら、活動全体について市民により興味・関心を持って頂けるような魅力あるプログラムを提供していくよう改善に努めていく。

Ⅲ. 企画展示事業

■春企画展①「2015 年度　グッドデザイン賞　in 北九州」

会　　期：平成 28 年 1 月 23 日(土)～平成 28 年 4 月 10 日（日）　79 日間（68 営業日）

主　　催：北九州市、北九州イノベーションギャラリー

後　　援：九州経済産業局、福岡県産業デザイン協議会、福岡県教育委員会、北九州市教育委員会、北九州市 PTA 協議会、北九州商工会議所、JR 九州、西鉄バス北九州㈱

協　　力：日本デザイン振興会、九州デザインネットワーク（北九州総合デザイナー協会）

観 覧 料：一般：300 円、中学生以下：無料（団体割引、障害者割引有り）

観覧者数：700 名（ 4 月 1 日（金）～4 月 10 日（日）まで：全会期観覧者総数は 4,008 名）

2015 年度グッドデザイン賞 Best100 作品のうち 40 点を展示。最先端のデザインを紹介するともに、デザインの可能性を示唆した。

■春企画展②　「時を刻む～″かたち″になった人類の英知～」

会　　期：平成 28 年 4 月 23 日（土）～平成 28 年 7 月 3 日（日）　72 日間（62 営業日）

主　　催：北九州市、北九州イノベーションギャラリー

共　　催：セイコーミュージアム、東芝未来科学館、国立科学博物館、一般社団法人日本時計協会、奈良文化財研究所、奈良県明日香村、明石市天文科学館（兵庫県）、時計・宝石・めがねのヨシダ、ミヤモト時計店、シチズン時計㈱、カシオ計算機㈱、北九州市立いのちのたび博物館、北九州市の文化財を守る会、九州工業大学井上研究室

後　　援：福岡県教育委員会、北九州市教育委員会、北九州市 PTA 協議会、北九州商工会議所、JR 九州、西鉄バス北九州（株）

観 覧 料：一般：300 円、小中学生：100 円、未就学児：無料
（団体 30 名以上は 2 割引、障害者割引有り）

観覧者数：4,115 名

目には見えない時を刻み、私たちに″時間″を教えてくれる時計、″時を書く時計″や″真空管の時計″など、時間を楽しむユニークな時計や北九州初展示の田中久重作「万年時計」（複製品）、セイコーミュージアムの秘蔵品など、時計約 120 点を展示した。

■夏企画展　「いっしょに楽しむ　デジタルワンダーランド PART1、PART2」

会　　期： PART1：平成 28 年 7 月 23 日（土）～平成 28 年　9 月　4 日（日）　44 日間（44 営業日）
PART2：平成 28 年 9 月　6 日（火）～平成 28 年 10 月 10 日（月）　35 日間（30 営業日）

主　　催：北九州市、北九州イノベーションギャラリー　　＊9 月 5（月）団体対応のため開館

後　　援：福岡県教育委員会、北九州市教育委員会、北九州市 PTA 協議会、北九州商工会議所、JR 九州、西鉄バス北九州(株)

企画製作：(株)しくみデザイン

観 覧 料：一般：500 円、小中学生：250 円、未就学児：無料
（団体 30 名以上は 2 割引、障害者割引有り）

観覧者数：9,448 名

テレビ・パソコン・携帯電話に次ぐ″第 4 のメディア″として、期待が高まる先端技術の一つのデジタルサイネージ。先端技術を応用して制作された楽しいコンテンツにふれ、驚きや感動、そしてその″し

くみ″について興味を持つ機会とすべく企画した。子供も大人も一緒に五感と体を使って、楽しく学んで頂く展示となった。

■秋企画展　実験いろいろ！おどろき体験「未来へ夢はずむ～ゴムのちから展」
会　　期：平成 28 年 10 月 22 日（土）～平成 28 年 12 月 23 日（金）　63 日間（54 営業日）
主　　催：北九州市、北九州イノベーションギャラリー
後　　援：福岡県教育委員会、北九州市教育委員会、北九州市 PTA 協議会、北九州商工会議所、
　　西鉄バス北九州(株)
監　　修：日本ゴム協会九州支部
協　　力：㈱久留米リサーチパーク、㈱ブリヂストン、ムーンスター㈱、㈱ミカサ、旭化成㈱、ダンロップスポーツ㈱、プロセブン㈱、興国インテック㈱、㈱東和コーポレーション、中島ゴム工業㈱、バンドー化学㈱、日本ゼオン㈱、デンカ㈱、高石工業㈱、住化コベストロウレタン㈱、日立オートモティブシステムズメジャメント㈱、内外ゴム㈱、大和技建㈱、六菱ゴム㈱、日本ミシュランタイヤ㈱、化学物質評価研究機構、広島化成㈱、王子ゴム化成㈱、㈱タカギ、㈱リコー、ハーモニーダイビングショップ、長崎大学、九州大学、久留米工業高等専門学校
　　＜順不同＞
観 覧 料：一般：300 円、小中学生：100 円、未就学児：無料
　　（団体 30 名以上は 2 割引、障害者割引有り）
観覧者数：4,222 名

私達の暮らしに役立ってきた、身近な″天然ゴム″。幅広い分野で応用される、最先端の″合成ゴム″。素材としてのゴムが持つ様々なチカラ(能力)について、実験・体験も交えながら製品などとともに解り易く紹介した。

■冬企画展　「磨き抜かれた職人の技～北九州技の達人展」
会　　期：平成 29 年 1 月 21 日（土）～平成 29 年 4 月 2 日（日）　72 日間（62 営業日）
主　　催：北九州市、北九州イノベーションギャラリー
観 覧 料：無料
観覧者数：3,464 名（ 1 月 21 日（土）～3 月 31 日（金）まで）
　　（4 月 2 日（日）までの全会期観覧者総数は 3,678 名）

長年にわたり技能の研鑽や後進の育成に励み、卓越した技能で″ものづくりのまち北九州″の発展を支えてきた方々を市が認定・表彰する制度『北九州技の達人』。今回、節目にあたる 10 回目認定を控え、歴代認定者 20 名の作品をスペースの許す限り紹介。実演も交え好評を博した。

■北九州市の近代化遺産シリーズパネル展　第二弾
「北九州市発展基盤となった交通・土木及び文化遺産」
会　　期：平成 28 年 1 月 9 日（土）～平成 28 年 6 月 30 日（木）　217 日間（192 営業日）
主　　催：北九州市、北九州イノベーションギャラリー
協　　力：北九州市の文化財を守る会
観 覧 料：無料
観覧者数：1,651 名（ 4 月 1 日（金）～6 月 30 日（木）まで）（※当館企画展観覧数に含まず）

北九州市の近代化遺産シリーズパネル展の第二弾として、当初の予定より期間を延長し開催した。北九州市内で明治24年に開通した九州鉄道、まちの発展に寄与した近代化遺産等、多数を紹介した。

■KIGSクラブ　帆船模型倶楽部セーリング・シップ　作品発表展示会
会　　期：平成28年7月3日（日）～平成28年9月30日（金）　90日間（83営業日）
主　　催：帆船模型倶楽部セーリング・シップ事務局、北九州イノベーションギャラリー
観 覧 料：無料
観覧者数：1,837名（※当館企画展観覧数に含まず）

KIGS倶楽部帆船模型クラブ「セーリング・シップ」の会員が制作したクラブメンバー渾身の作品群帆船模型約30作品を展示紹介した。

■KDA北九州総合デザイナー協会３０周年記念共同企画
「四季をきり撮る技～坂本マスオ写真展」
会　　期：平成28年10月15日（土）～平成28年12月25日(日)　71日間（61営業日）
主　　催：北九州市、北九州イノベーションギャラリー
協　　力：(有）坂本写真事務所
観 覧 料：無料
観覧者数：1,226名（※当館企画展観覧数に含まず）

賞歴も多い地元写真界の第一人者で、北九州総合デザイナー協会理事長の坂本マスオ氏が、北九州商工会議所会報の表紙用を主にこれまで撮りためた"北九州市の四季の情景"の中から、選りすぐりの力作46点を季節ごとに展示した。

■KDA北九州総合デザイナー協会&KIGS北九州イノベーションギャラリー共同企画
「北九州デザイナーズコラボレーション展」PARTⅠ，Ⅱ，Ⅲ
会　　期：平成29年1月21日（土）～平成29年2月19日（日）　30日間（26営業日）
主　　催：北九州イノベーションギャラリー
共　　催：KDA北九州総合デザイナー協会
観 覧 料：無料
観覧者数：376名（※当館企画展観覧数に含まず）
設立３０周年を迎える「KDA　北九州総合デザイナー協会」の優秀な会員作品を広く展示紹介した。地元のプロの秀逸な感性を紹介する展示のほか、講演やイベントショー等も併催した。

【自己評価、今後の課題】

年間の企画展観覧者数は、計画値18,500名を大幅に上回る21,949名となった。特に、春・秋の好調さが集客増を大きく後押しするとともに、収入確保にも貢献した。その結果、冬の企画展を無料にて開催出来た。夏は、計画値自体がやや高すぎたようである。

春の時計（精密機械）は、充実した内容・点数を揃えた見応えのある展示とし、秋のゴム（化学）は、実験や工作を豊富に交えわかり易く原理を示したことが奏功し、家族連れで賑わった。ともに、自主企画として初めて扱うテーマにおいて、結果を残せたことを今後の糧としたい。

夏は、先端技術について、家族で楽しみながら体験出来る大がかりな仕立てとし好評を博したものの、予算に限りもあり展示点数が限られたことについてアンケート等で指摘を受けた。

冬は、懸案事項であった地元の技能顕彰制度について、また、その優れた作品と作者を初めて紹介する良い機会となった。今後も、適切なタイミングで継続的に開催したい。

今後の企画展においては、過去に開催していないテーマを中心に、これまでの枠にとらわれ過ぎず、幅広く柔軟にテーマを選定し、老若男女各層に適切に訴求する展示をうまく組み合わせるため、早期よりチームワークよくじっくり取り組み、仕上げていけるよう改善したい。

特別展においても、フリースペースをうまく使って、地元の話題や歴史に関わるものや、当館を拠点としてものづくりやデザインなどに取り組む団体の作品発表など、バラエティに富む展示を精力的に行った。今後も、うまくシリーズ性を持たせたり、変化に富む仕立てを施したり、様々な工夫をしながら、企画展同様、これまで取り上げていないテーマ、より市民の興味をそそりそうな展示分野などについて、果敢に取り組んでいく。

Ⅳ.調査研究事業

調査研究事業は、

◆当館の設立目的のひとつに産業技術の保存継承と人材育成がある。産業技術を理解するには、現物だけでなく個々の技術に秘められた創意工夫や技術者の思い、社会や文化が技術革新に与えた影響、更には技術革新が社会に与えた影響などを後世に伝える必要がある。

◆北九州を中心として技術革新の歴史を調査記録し、公開することで北九州の企業が技術革新に果たした役割についてまとめ、理解を深める。

◆今進めなければ消滅する可能性のある、すなわち緊急性の高いテーマを優先することを基本方針として調査・研究を行う。

実行にあたっては、

① 地域の持つ技術力の活用という観点から、地元技術士会、技術者 OB などに協力を仰ぐ

② これまでに培われたネットワークを最大限に活用する

ことを念頭におき、「地元企業への委託研究」、「北九州地区技術士会への委託研究」、「国立科学博物館との共同研究」を実施した。

1 「北九州における耐火物技術の歴史と発展」の調査・研究

北九州は製鉄業を嚆矢として、窯業、化学工業、セメント工業などの素材産業の集積地に発展し日本の高度成長期を支えてきた。北九州を拠点として発展している多くの老舗企業の一つに1918(大正 7)年に設立された黒崎播磨株式会社がある。同社は製鉄に欠かせない耐火物の製造を主力事業としており、創業以来、日本の製鉄業を支え発展してきた。今年度はこの黒崎播磨(株)が保有する「耐火物技術」を取り上げ、北九州の技術革新の歴史として調査研究することとした。また、この独自技術の発展と密接に関係している同社の経営、事業の歴史も併せて調査している。

調査研究期間：平成 28 年 5 月～平成 29 年 2 月

研究体制　　：当館調査研究部門の企画、監修のもと、黒崎播磨(株)に調査研究を委託。

2 「天然及び合成ゴムの技術的歴史と発展」の調査・研究

北九州の主要な産業技術の調査研究に加え、北九州から少し視野を広げた領域のテーマにも調査研究を広げていくことにしており、その一つとして当館で企画・実施している企画展のテーマを先行調査した結果を調査研究報告書としてまとめ、企画展テーマに関連する技術者、団体および一般の方々の技術的関心に応えるとともに後世への技術伝承として冊子にして残すことにしている。平成 28 年度は、秋企画展「未来へ夢はずむ　～ゴムのちから展」の企画と併行して実施した調査内容を調査研究報告書としてまとめた。企画展では詳細を解説できなかった、ゴムの歴史、ゴムの構造、製造方法、多彩な応用、そして将来への発展についてまとめている。

調査研究期間：平成 28 年 5 月～平成 28 年 11 月

研究体制　　：当館調査研究部門の企画、監修のもと、日本ゴム協会九州支部に調査研究を委託

3 「時計技術」の系統化調査

人間の生活は、太陽の位置、あるいは月の満ち欠けを基に営まれてきた。そして、その時間を身近な存在になるよう時計という道具を発明し、進化させる努力を続けて来た。更に、時間精度の向上と常に時間を知ることができるウェアラブル機器へと発展させた。本調査研究報告書では、この時計技術について国産独自設計の機械式腕時計からクオーツ腕時計、そして更なる高精度化を求めた技術開

発についてまとめた。この時計の技術発達を系統的に調査研究し、その技術と社会・文化との相互関係を分析するとともに、我が国の産業技術発達の成り立ちを明らかにしたつもりである。本調査は国立科学博物館との共同研究として実施した。

調査研究期間：平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月

研究体制　　：国立科学博物館との共同研究

【自己評価、今後の課題】

北九州の産業技術革新史の調査・研究は当館の重要な調査研究事業の一つである。今年度の北九州の産業技術に関しては、平成 27 年 7 月に世界遺産登録された「明治日本の産業革命遺産　製鉄・製鋼、造船、石炭産業」に関連し、製鉄・製鋼に使用される「耐火物技術」を調査対象とした。また、北部九州で発展したゴム産業および時計技術などの日本の特徴的技術を調査研究することができた。

「耐火物技術」は官営八幡製鐵所の操業を期に北九州で発展した重要技術である。この製鉄業を支えた技術・製品の発展と当該企業の歴史を明らかにできたことは北九州産業技術史の保存継承に意義があると考えている。

「ゴム技術」については、企画展「未来へ夢はずむ　～ゴムのちから展」では紹介できなかった詳細なゴムの歴史、製法、応用、将来性について、それぞれの専門家が調査研究し、まとめたことに大きな価値があると考えている。

国立科学博物館と共同研究した「時計技術」は、先行した海外の機械式時計の模倣技術から日本独自のクオーツ時計開発、そしてメンテナンスフリーのソーラー電波時計開発の技術的発展を系統的に調査研究でき、「時計技術史」の近代的側面を明らかにできたと考えている。

平成 29 年度も引き続き北九州にある特徴的な技術の歴史と発展の調査研究を行うとともに、国内外の様々なイノベーションの歴史的発展について幅広い視点からテーマを探索していきたい。

Ⅴ. 図書･映像等の収集、制作、公開事業

当施設の設立目的に沿った図書及び映像の収集に努めた。また、その公開を積極的かつ迅速に実施することにより、来館者に対して量的・質的向上とサービスアップを図った。

1　図書・資料の収集

新規発行技術専門書、企画展及び各種講座やフォーラムに関連する書籍、定期刊行物(新聞・雑誌)などに分類し、多分野に亘って幅広く購入した。また、種類別のコーナーを区分してわかりやすく一般へ公開した。

＜平成 28 年度購入実績＞　　1,183 冊（書籍 850 冊、雑誌 333 冊）

＜平成 28 年度寄贈受入実績＞　　116 冊（社内報 49 冊、報告書・社史・一般書等 67 冊）

2　ライブラリーの運営

来館者に対し、公平で良質なライブラリーサービスを提供しながら、利用者の研究や学習の支援に取組んだ。

◆サービス向上に取り組んだ内容

- 企画展や館内でのイベントにあわせ、来場者の興味を引きそうな図書をライブラリー入口に配架し、利用促進を促した（特に子供向け）。その効果などによりライブラリー会員登録者数、貸出書籍数が昨年度より増加した。
- 子供向けの科学読物、図鑑、絵本などを積極的に購入し、イベントなどで来館する子供たちの興味を引き、館内閲覧や貸出を増加させた。
- ホームページに各月の新着本情報を掲載するとともに、メルマガ会員に向けて KIGS Letter を月 1 回程度配信するサービスを引き続き実施し、利用者の興味を引き、利用頻度向上につなげた。
- 今年度は北九州企業に社史等の寄贈依頼を行い、10 社超から新規に寄贈を受け、社史コーナーの充実を図った。企業の技術、製品の変遷を調査研究するために活用を促進したい。
- 企画展観覧目的で来館された一般利用者に、企画展に関連する知識を得ていただくために、昨年度同様、ライブラリー入口付近に「企画展関連図書コーナー」を設けた。
- 読書週間(10 月 27 日（木）～11 月 9 日（水）)に貸出利用者を対象に貸出バッグを進呈するキャンペーンを行った。今回も、告知はがきをライブラリー会員に送付し、利用促進を図った。その結果、通常期より貸出件数が増加した。

◆利用者の声

- 「科学、技術分野の魅力的な書籍が多くあり、来るのが楽しみ。もっとＰＲすべき。」との声が寄せられた。ホームページやメールマガジンでの紹介を強化していく。
- 「ライブラリーの位置が分かりづらい」との声や「自由に出入りしてよいのかわからない」との声が寄せられ、ライブラリー入口に案内表示を掲示した。また、従来どおりスタッフによる案内も継続的に実施している。
- 子供向けの書籍をもっと増やしてほしいとの要望も寄せられたため、科学や技術に関する子供向け図書を増やしていく。

《ライブラリー利用者数》年間利用者数：4,655 人、月平均：388 人

※前年度年間利用者数：4,813 人(月平均 401 人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	298	297	285	548	808	331	334	431	307	306	238	472	4,655

《ライブラリー会員数》年間登録者数：157 名　※前年度 135 名

月	前年繰越	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	退会	合計
人数	1035	7	8	4	36	41	10	6	4	5	7	6	23	0	1,192

《貸出利用回数》年間貸出回数：1,018 回(ライブラリー利用者の約 22%)

※前年度貸出回数：979 回(ライブラリー利用者の約 20%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
回数	60	62	66	83	125	80	104	124	88	70	36	120	1,018

《貸出利用冊数》年間貸出冊数：年間 2,954 冊(1 回平均 2.9 冊)

※前年度貸出冊数：年間 2,586 冊(1 回平均 2.6 冊)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
冊数	114	158	179	236	408	246	313	393	256	194	93	362	2,954

3　映像の制作及び収集等

(1)映像の制作

鉄の進化をけん引した耐火材の技術・製品開発を北九州企業の発展の歴史とともに、一般市民にも分かり易い技術革新物語として制作した（日・英・中・韓の 4 カ国語)。

・制作作品：　鉄の進化を支えた炉材革命（約 26 分）

・作品概要：　製鉄に欠かせない耐火材。鉄の高性能化、高機能化を実現するには炉材としての耐火物の進化が必須である。国内耐火材メーカー大手の黒崎播磨(株)が挑戦し続けた耐火材の技術革新の軌跡を追った。

(2)映像の収集(33 作品)

市販品(20 作品)　　DVD

映像タイトル	映像分野	企画会社名	時間(分)	制作年
人類宇宙への挑戦 Vol.1NASA 宇宙時代の幕開け	その他	(株)アスカインターナショナル	58	—
人類宇宙への挑戦 Vol.2 アポロの時代	その他	(株)アスカインターナショナル	55	—
人類宇宙への挑戦 Vol.3 人類月に立つ-アポロ 11 号	その他	(株)アスカインターナショナル	49	—
人類宇宙への挑戦 Vol.4 アポロ　困難の克服～月面探査まで	その他	(株)アスカインターナショナル	63	—
人類宇宙への挑戦 Vol.5 困難からの回復～スペースシャトル・ハイライト	その他	(株)アスカインターナショナル	68	—
人類宇宙への挑戦 Vol.6 スペースシャトルのミッション	その他	(株)アスカインターナショナル	64	—
人類宇宙への挑戦 Vol.7 日本人宇宙飛行士、スペースシャトルで宇宙へ毛利衛／土井隆雄	その他	(株)アスカインターナショナル	63	—
人類宇宙への挑戦 Vol.8 日本人宇宙飛行士の時代が来た！向井千秋／山崎直子／野口聡一／土井隆雄	その他	(株)アスカインターナショナル	63	—
人類宇宙への挑戦 Vol.9 日本人宇宙飛行士、国際宇宙ステーションへ星出彰彦／若田光一／古川聡	その他	(株)アスカインターナショナル	67	—
人類宇宙への挑戦 Vol.10NASA 国際宇宙ステーションの時代へ	その他	(株)アスカインターナショナル	54	—

人類宇宙への挑戦 Vol.11NASA惑星探査～太陽系外へ	その他	(株)アスカインターナショナル	67	—
人類宇宙への挑戦 Vol.12NASA 火星探査計画	その他	(株)アスカインターナショナル	53	—
世界遺産・西本願寺　御影堂 10 年大修復	建築・土木	NHKエンタープライズ	178	2011
NHKスペシャル　世界遺産平泉　金色堂の謎を追う	建築・土木	NHKエデュケーショナル	49	2012
NHKスペシャル　世界遺産　富士山水めぐる神秘	その他	NHKエンタープライズ	58	2013
世界遺産姫路城～白鷺の迷宮・400 年の物語	建築・土木	NHKエンタープライズ	110	2013
最新鋳鉄鋳造技術講座　第1巻	鉄・非鉄金属	モノづくりネット(株)	44	—
最新鋳鉄鋳造技術講座　第2巻	鉄・非鉄金属	モノづくりネット(株)	33	—
最新鋳鉄鋳造技術講座　第3巻	鉄・非鉄金属	モノづくりネット(株)	32	—
最新鋳鉄鋳造技術講座　第4巻	鉄・非鉄金属	モノづくりネット(株)	28	—

寄贈映像(13 作品)　　DVD

映像タイトル	映像分野	企画会社名	時間(分)	制作年
空から宇宙へ～油井亀美也 ISS 長期滞在ミッションダイジェスト～	その他	(財)日本宇宙フォーラム	17	2016
空へ宇宙へ JAXA2015-2016	その他	(財)日本宇宙フォーラム	14	2016
JAXA 動画ニュース地球環境を守る人工衛星	その他	(財)日本宇宙フォーラム	8	2016
JAXA 動画ニュース“ひも”をつかって宇宙ゴミを掃除しよう！宇宙デブリ除去技術	その他	(財)日本宇宙フォーラム	7	2016
大西宇宙飛行士搭乗ソユーズ宇宙船(MS-01/47S)の打上げ	その他	(財)日本宇宙フォーラム	5	2016
明けない夜はない-金星探査機「あかつき」挑戦の軌跡-	その他	(財)日本宇宙フォーラム	20	2016
20 世紀の記録　世界の宇宙ロケット／宇宙への挑戦	その他	(財)日本宇宙フォーラム	27	2016
日本が有人宇宙活動に果たす役割	その他	(財)日本宇宙フォーラム	5	2016
静止気象衛星「ひまわり 9 号」打ち上げ(H-ⅡA ロケット 31 号機)	その他	(財)日本宇宙フォーラム	3	2016
イプシロンロケット 2 号機／イプシロンのさらなる挑戦	その他	(財)日本宇宙フォーラム	3	2016
気象変動～人工衛星で見極める地球の「いま」と「未来」～	その他	(財)日本宇宙フォーラム	4	2016
大西宇宙飛行士、ISS長期滞在のミッション成果	その他	(財)日本宇宙フォーラム	6	2017
種子島宇宙センター未来へ	その他	(財)日本宇宙フォーラム	8	2017

(3)映像の公開

平成 27 年度に製作した「発電プラントの動脈を操る～高温・高圧バルブの開発物語」(約 23 分)について、6 月の市民セミナーで取り上げ一般公開した。また、当館への訪問団体に向け、個別にプログラムした保有映像の上映を積極的に行った。

【自己評価、今後の課題】

新着本のホームページでの公開やメールマガジンでの紹介などライブラリー利用促進策を継続したことに加え、ライブラリー入口にイベントに合わせて来館者の世代が興味を引く図書を配架したことで、昨年度に比べて利用者が増加している。開館 10 年を迎え、施設のテーマに沿った図書の収集により質・量ともに充実してきたので、今後も、いかに北九州市民に当館ライブラリー、蔵書の魅力を発信していくかが継続的課題である。館内での各種イベント、講座などの人が集まる機会を利用して図書利用の魅力を訴えていきたい。また、リピーター形成が重要なので、ＫＩＧＳ各部門と連携し

た総合的な魅力形成を検討していく。

映像の収集と公開についても、活動やストックのアピールについて、館内表示やホームページ掲載、上映イベントの精力的な開催などを通じて、認知度と利用度を高めていくよう取組む。